

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO・ESP・Cosmic Philosophy
コンタクティー

contactee



AUTUMN
1995

130

M氏の「UFOと異星人」体験

アダムスキー型UFOの飛行原理を解明
超能力者ディナの驚異的パワー
異星人女性との出会い／白山のUFO
透視・臨死体験・不思議な女性
父と従兄が“UFO”目撃

直木賞作家
高橋克彦

人間の实体・意識・テレパシー原理



<巻頭言> 烈 日 1

M氏の「UFOと異星人」体験 久保田八郎 2

アダムスキー型UFOの飛行原理を解明 遠藤 昭則 10

GAP短信 21

科学——SCIENCE—— 22

超能力者ディナの驚異的パワー 久保田八郎 24

異星人女性との出会い 佐々木八郎 26

スペースピープルを見かける私 原垣内良子 26

透視・臨死体験・不思議な女性 千葉 福造 28

UFO、狭山市に出現 小田 育男 32

不思議な空中現象 クライド・W・トンボー 33

白山のUFO 沼倉 孝彦 34

父と従兄が“UFO”目撃 高橋 克彦 36

人間の実体・意識・テレパシー原理 G. アダムスキー 38

熱気に満ちた第1回高松支部大会 44

<投稿欄>ユーコン広場 46

<予告>久保田会長応援アメリカの旅 47

UFO contactee バックナンバー 主要記事 48

<予告>1995年度日本GAP総会 49

<広告>新アダムスキー全集 50

編集後記 51

日本GAP全国月例セミナー案内 52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2箇の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達を上げた人類が居住しているが、米・他の大國政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

<表紙写真>

1957年10月16日、当時アメリカのマスカレロ・インディアン保護地のインディアン局に勤務していた看護婦エリヤ・ルイス・フォーチュン嬢が、ニューメキシコ州ホロマン空軍基地でこの名高い写真を撮ってUFO研究界で有名になった。これを雲と言う人もあるが、編者が調査した限りでは真正正銘のUFOであった。

日本GAPへはいりませんか

- 日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究団体です。会員は約1700名、世界でもトップクラスの研究集団として、世界の多くの研究団体や個人研究者と交流を保っています。
- 東京本部と地方の17支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学の研鑽について研究討議を行っており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。
- 東京では毎月第一日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFO研究と宇宙哲学の大先駆者・久保田八郎会長の解説講義、超能力開発練習その他のプログラムを実施、会員が宇宙的な波動下に研鑽します。品格のある楽しい雰囲気になっています。
- 入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へ入会案内書へハガキでお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

某カルト教団の大事件も教祖の逮捕によってひと山越えた感があるけれども、まだ予断を許さぬ状況らしい。それはともかくとして、超能力を売り物にしていたこの教団の欺瞞性にかつて、真実の超能力やUFO問題までも一緒に抹殺しようとする一部の学者や評論家の言動こそ狂気じみている。物理学の法則に合わないというだけであらゆる超常現象を否定してかかるのは、むしろ学問の進歩を阻害するサイレンスグループ的な態度である。

〈巻頭言〉

烈日



打ち出したバストゥールは、悪霊説に固執する頑迷な人々から猛烈な攻撃を受けた。同時代の人々には不可視な菌の存在は信じられなかったのだ。当時としては悪霊を信ずるのが常識であった。

常識とは何か。学校の教科書に記述してあることだけを学習し記憶するのが常識なのか。科学やその他の学問が進歩すれば、それにつれて不可解な事象が出現してくるのは当然である。それについて次々と仮説を打ち出して解明に取り組みのが学問的態度というべ

きだろう。仮説をどんどん出して研究せよと、日本のあるノーベル賞学者は学生達に訓示している。

UFO問題にしてもしかり。戦後、世界中の無数の人がUFOを目撃して重大問題と化したので、米空軍はATIC（空軍技術情報センター）の支援下にUFO問題の調査を一九四七年九月に開始した。その後、この調査機関はプロジェクト・サイン、プロジェクト・グラッジ、プロジェクト・ブルーブック等、各種の名称変更を経過し、一九六九年二月には解散した。それはUFOが別な惑星から来る宇宙船という結論が決定的になりかかってきたために、欺瞞の持続が不可能になったからである。ブルーブックのリーダーであったエドワード・ルツペルト大尉は、アダムスキーと会見して詳細な話を聞き、彼の体験を真実と認めていた。

その他、米空軍の調査機関による膨大な調査結果は、大気圏外文明の存在に関する確実な証拠を把握する方向にありこそすれ、UFOの存在を否定する態度を打ち出していない。

一九七一年七月二六日から八月七日まで月へ航行したアポロ一五号宇宙船に乗り組んだ宇宙飛行士ジェームズ・B・アウイン中佐は、月着陸船ファルコンに乗ってアペニン山脈の麓に着陸した。このとき彼は月面でUFOを目撃したのである。この体験については後年彼が日本へ来てテレビに出演し

たときに明確に断言したのだ。

こんな重大な証言があるにもかかわらず、日本のUFO否定論者達が、あたまからUFOの存在を否定し、空中の確認物体の誤認か幻覚のたぐいだと言っているのはまことに遺憾である。それが学者ならば学究的態度が疑わしくなってくる。もっとも、自己の研究分野の権威を維持するためには心にもないコメントを表明する必要もあるだろう。内心では認めたがっていても、または本気で物理学の法則を振りかざしてUFOや超能力を否定するのなら、自己の専門分野以外の事象に対して盲目なのか、または自分の内部に物差しが一本しかない状態のいづれかだろう。

いったいに現在の地球の科学が宇宙の新羅万象を解明しつくすほどのレベルに到達していないことは誰にもわかる。パロマー天文台の二〇〇インチ反射望遠鏡でもってしても、銀河系が一十億個しか発見できないという無限ともいべき大宇宙の果ての世界まで地球の科学で究明可能だとは到底考えられない。超能力にしても同様である。テレパシー、遠隔透視現象は世界で山のようにあり、これらは早くから米ソの科学者が研究していた。アメリカではデューク大学のライン博士の研究、ソ連ではB・B・カジンスキーその他の研究者が多数の論文を発表している。後者はテレパシー現象を「生物学的無線通信」と呼び、同名の研究書まで出

している（新水社刊）。宇宙ロケット開発の父と謳われたツイオルコフスキーはカジンスキーに言っている。「やがて宇宙飛行の時代がくるなら、人間のテレパシー能力は、なくてはならないものとなり、人類の全般的な進歩に役立つでしょう」

しかしわが国でもこの分野の研究に精励している学究は少数ながら存在している。聞くところによれば、真摯な研究者が結果して超能力研究の本格的な活動の機運が生じているという。来世紀には輝かしい未来が展開するだろう。したがって現段階は悲観的なものではない。ここではいわゆる超能力やUFOを怪しげなオカルトの分野に入れてきた混ぜにする風潮を錯誤であると指摘したにすぎない。

最近国連のある高官がアダムスキー問題を重視して、これを取り上げようと努力しているという情報に接している。ここで決定的な法則が出てくる。「真実は絶対的につつ」という法則だ。過去の歴史をみても、同時代人に認められなかった偉大な発明発見は後世で必ず浮上する。真実なるものを人々は看過できないからだ。その例は枚挙にいとまがない。

また過去の傑出した発明発見の多くはアマチュアによって達成された事実を忘れてはならない。柔軟な頭脳は知識の波動をキャッチしやすいのだろう。というよりも恐れないからだ。（久）

Mr. M Talks about UFOs and Space people
by Hachiro Kubota

M氏の「UFOと異星人」体験

★久保田八郎 (日本GAP会長)

「UFOと異星人の真相」(中央アート出版社)の主人公M氏が昨年五月に編者に語った秘話。この部分は出版社側の編集の都合により同書に掲載不可能であったため、今回氏の了解のもとに、きわめて有益な内容をここに公開した。M氏の宇宙的な体験については前記の書物を読まれたい。本号五〇頁に概要案内を掲載。

異星人はまず精神面の向上を示唆した

——「UFOと異星人の真相」に掲載する資料が少し不足するかもしれないので、つけ加えるためのインフォメーションとして、あなたのご体験のうちで、もっと詳細にお話をして頂ける部分があれば幸いです。

「そうですね、最初に映像が見えてきた頃のいろんなメカニズムみたいな問題とか、シンボリックなものとか、そういう部分を加えますと、読者の方々が興味をもたれると思います。つまり超能力的な面とか歴史観の問題とか、そうしたことから話したいかもしれません。またUFO情報に関して、

どういうふうに見ていったらよいかという問題もあります。

私のコンタクトの体験は、すでにある本でお話しておりますから省略することにして、コンタクトの経過の中で非常に重要だったのは、まず異星人がこういうふうに言ったのです。

「あなたの中の「善と悪」という考え方をもう一度総チェックしなさい。他人を「善と悪」とにきめつけていることによって起こっているいろんな心理的な葛藤があるのです」

これが、彼らが私に話してくれた最初の教えです。これはイメージを拡大

してごらん下さいという意味でもあったと思います。

その頃の私はまだ中学生でしたし、社会的な問題などで、なぜあんなに大人は汚いのだろうか、なぜ政治家は悪いのかと思ったりして、社会がこんな状態だから、われわれ少年もこうなるんだと思っていましたね。たとえば、セックスにしても非常な罪悪感をもっていました。

そういういろんな罪悪感とか人を裁く心ですね、これを自分で再検討してもっと自分の枠を広くせよというのが彼らの最初の指導の主眼点だったように思います。

そこから始まって、彼らは私の内面的な問題の示唆といえますか、そういった面の導きとともにUFOの非常にメカニックなものを教えてくれるというふうな、精神的なものとは並行して指導を進めてくれたわけです。

彼らの概念というのは、自分達の母星があつて、そこにずっと留まり続け

るといふ地球的な生き方とは違って、一歩先に別な所へ生まれ出ているという概念なのです。

つまり彼らは、宇宙空間の中の惑星から生まれたんだ、宇宙人として生まれたんだという概念がありますが、しかし地球人は地球人のままでいて、地球人から宇宙人に生まれ出る(宇宙の中の人間として目覚める)ことをしていかないというわけです。そこまでの過程が、その星が常に新しい局面を迎えるか、または衰退していくかの大きな別れ目になるといふことらしいんです。ですから、当然、狭い地球という内面だけで考えていけば、資源も限定されていくし、その資源を互いに奪い合う、取り合う、線引きをしたがる、ある一定のルールをもって領分を決めるということになっていくわけです。

ところが、その惑星の問題をクリアーすることによって初めて人類は宇宙へ出て行くことが出来るんです。しかし宇宙空間を短時間で航行できるよう



● スイスに出現した アダムスキー型円盤 **円盤**

1975年7月26日午後3時頃、スイスのヴァレー州ザースフェーの近くで3名のオランダ人が登山中、円盤型UFOが出現。仲間の写真家のリッケルト・デ・クーが撮影した。円盤の上部にドームがあるのがわかる。

な物を発明するとか、またはどんな宇宙の果てに行つても、お互いに精神的な、たとえばテレパシーのような手段によって交流するようなことが出来ないと宇宙に出て行けないわけです。

地球人は宇宙への進出が

第一

そこでまず地球上において地球の問題を解決できる方法が見い出されたら、それに、そういうものがインスピレーションとして与えられるという宇宙の仕組みがあるんだというのです。

そこで我々地球人が宇宙へ生まれ出て（進出して）宇宙人として活動できれば、すごく広い範囲で物事をとらえることができるようになります。

ですから、我々の地球経済というのは金であるとかダイヤモンドであるとか株であるとか、そういったものによつて経済政策の基準が支えられているわけですが、しかし宇宙へ出て行けば金などは豊富にありますし、ダイヤモンドだってゴロゴロしていますし、ましてやお金が存在しないので株価の変動で経済を決めるというようなことをしなくてもすむわけです。

そうしますと、個人の物質的な要素は満たされています。そういう時代に突入する必要があります。

ところがそうしたときに、もし現状よりも進化したと、今限定された資源の中でこうしてやっている地球人の

クセが自由になった範囲で出てしまうんです。そうすると広い範囲で問題を起こすことになるというわけです。それが今地球人が異星人のネットワークに入っていないという理由になるのです。

ですから彼らは私自身に対しては、そういったメンタルな部分と、彼らのメカニズムといえますか、宇宙船にせよ彼らの生活形態にせよ文明にせよ、とにかく我々にとつて非常に有益になるようなもののヒントを、私の場合はシンボリックにいくつかのイメージで彼らにもたらしてくれましたし、精神的な部分においては、いろいろと行動する過程で、私の方から求めてたずねることによつて、それに対して答えてくれたというわけです。

異星人の教育の仕方

彼ら異星人達の教育の基本的に共通するパターンは、最初に答にダイレクトにつながるようなヒントを与えてくれることにあります。

そのヒントというのは、たとえば、 $2+3$ という式があるとしますと、足し算を教えるのではなくて、 $2+3$ の答えは5であるということ、先にある程度教えてしまふんです。そうして、 2 に 3 を足したらなぜ 5 になるのか、ということを考えさせるのです。

最初は答えといひますかヒントとい

いますか、それがダイレクトにもたらされたら、なぜそれが与えられているのか、その理由が我々にはわからないことが多いんです。

しかし思考する過程のなかで、ああそうか、これは 2 と 3 を組み合わせて 5 という数字になる足し算であつたのか、ということが、あとで理解できるんです。ですから宇宙で自分達が考えて理解すべき答えというのは「経過」なんです。

したがつて数式の答えというのは、彼らにとつては「ヒント」なのです。

これは我々の教育手段からみればまったく逆なことです。地球の我々のやり方ですと、 $2+3=?$ というふうな 5 を隠しておいて、まず $2+3$ の計算の仕方を教えておいてから、 5 を導き出させるわけです。ところが彼らは最初から 5 がヒントとして出てきて、「どうしてこれは 5 になるのか」と考えるわけです。これは彼らにとつて共通した教育概念のような気がしますね。

我々が答えだと思つて数字を彼らは始めからヒントとして与えるんです。

その過程を考えさせることによつてハッキリと全体を短時間で理解できるようにするし、それによつて魂そのものも悟るというわけです。知識欲求が満たされるだけではないに、魂そのものを悟ることになる効果があるんだと、彼らはそういう価値基準でみています。

まずUFOの内部構造を見せる

UFOの内部構造にしても、最初から内部の構造を見せられてしまふんです。つまり、その内部構造を理解するには、ここにモーターがあつて、ここにこういう装置があつてという説明から始まるのではないんです。

たとえば、突然コントロールパネルの文字盤みたいな物がボンと見えてしまふ。突然グラフィみたいな物が見せられる。または突然に最高の決定会議を行なう円卓会議の席上を見下ろした光景を見せられる。

というわけで、異星人が最先端の技術で持っているものは、こういう物とこういう物であり、我々が一番神聖な場として考えているのは、こういう空間なのだと言つて見せておきます。このようにして、なぜそれらに価値があるのかということ、我々に考えさせるというわけです。

そういうわけで、我々の思考方法は逆なことをやるものですから、ある意味では非常に不可思議なナゾ解きゲームみたいに見えるんですが、結果としてはそれが私に最もよく理解できましたね。

ですから私は学生時代には数学にしろ物理にしろ地学にしろ、理系の学科は好きだったわけではないんですが、嫌いだつた理由は、いつまでたつても

先生が最終的な答えを教えずに、その経過をずらしながら解答を人質にとっているような教え方をしたからです。

このような教え方では、たとえば非常に感覚的な右脳のセンスを持つている人は学習自体が進みません。アウトルーパーになってしまいます。

ところが、その教え方をちよつと変えて、結論的な示唆的な事をくり返しくり返し頭の中に入れてやるとか、映像化してみるとか、象徴化してみるとかして、その経過を自分の中で生活の中で考えてゆくという作業の方が、異星人は重要だと思っているようです。

テレパシーで伝達する 異星人

もうひとつ私が異星人の社会で面白いと思ったのはコミュニケーションの方法です。

たとえば彼らがメガネという物について人に伝えようとします。しかし彼らにはメガネという言葉は存在しないんです。その場合はメガネのイメージを思い浮かべるだけでメガネが相手に伝わってしまうんです。

ですから、必然的に真つ先に彼らの文明の中で消えていったのは、人に名前をつける行為だったというわけです。たとえば私がAさんにむかつて、ここにいないBさんのことを伝えようとしたら、Bさんのバイブレーションを思えば、Aさんには伝わるのです。それ

は距離に関係なく伝わります。そうした場合、名前はまず消えてしまいます。ところが異星人達は逆に、我々とコインタクトするときに非常に配慮するのは、我々地球人には名前がないと理解できませんから、いろんな物事に対して仮の名前をつけたり、仮の説明をすることに彼らは非常に気がつかっています。

しかし異星人達は彼らの物事をむりやり押しつけてこようとはしません。たとえば、地球人は名前などを名乗ったらいけないとか、私は名前を持つていないんだ、だから私のイメージを浮かべよとか、そんなことは言いません。

そこで彼らは「仮の名前を名乗るから、その名前を思い浮かべなさい。そうすればテレパシーがこちらへ来るから」と言つて、回路をまず作つて下さるのです。これは要するに地球人的なテレパシーを伝える回路です。名前をイメージしないと相手をイメージ出来ないからです。だから名前というクサリでテレパシー自体がつかれていると解釈してよいでしょう。

彼らはそうした初歩から初めて、あとはあまりこまかい言葉で説明しようとせず、とにかくいろんな象徴を見せてくれます。それらの象徴をいろいろ調べているうちに、古代のある宗教的な儀礼に使われた象徴であることがわかったりします。そのとき古代人はどんなふうに行動をとつたかを歴史的

に調べてみると、意味がわかつてきたりします。

したがって、常に2+3=5だというふうに、5が先に出てきてから2+3を考えさせるようなやり方をしていきます。これはひよつとしたら地球でも新しい教育の考え方のヒントになるのではないかという気がしますね。

記憶は歌で増進させる

ただし単純に物事を累積的にドリルの記憶するということが、それを生活の中で使いこなすということも彼らはやっています。

その面についてはどういうふうにして処理をしているんだろうか、どういうふうな教育形態を持っているのですかと思つて聞いたときには、相手はこう言いましたね。

『ドリル的に記憶することに関しては、歌をベースにしてやっています』

たとえば非常にスピードの早い歌とか、ゆったりした歌など、その歌の中に記憶したい意味の言葉や、記憶したい意味のバイブレーションをこめると、その歌を思い起こすだけで、反復学習が楽しくなって自然にできてしまうというわけです。

それによつて覚えさせることを小さいうちからやるそうです。だから異星人達の教育というのは歌やシンボルが中心になるんです。

あるときにはそれに合わせて踊りをやったりすることで、物事を覚える波動を感じるための感じ方を覚えるテレパシーを進歩させることを、総合的に踊りの中で勉強するんです。ですから我々とは非常に違った複合的な学習の仕方をするようです。それは金星でも水星でもそういう学習形態でやっていることです。統一されているようです。

出身地の系列を重んじる

また彼らは系列というものを非常に重んじています。地球人からみれば、血筋みたいなものだと思います。

この系列というものに彼らがなぜこだわるのか、ということに関しては、私も最初はいちばん理解できなかったんです。すごく封建的にも感じました。

それは先祖とか系列、要するに遺伝子の傾向ですね、これにそつた彼らは適材適所をもつと宇宙的な範囲で考えているんです。こういう遺伝子の傾向を持つている人達が、最も自由に最も素晴らしい作業が出来るためには、この人達はたとえば金星という惑星のバイブレーションの中で暮らして、そこからたとえばそのうちの何分の一かは地球に対して、こういうふうなアプローチをした方がいいだろうというわけで、これはお互いに論ずる、論じられるの世界で、お互いに自分の認識を感じ取

り合うわけです。

たとえば水星の系列、木星の系列、土星の系列などが出てきて、土星の系列に關係している人達は、たとえばアンドロメダの系列とか、双子座の系列とか、いろいろの系列がさらに奥から出てくるわけです。

そうするとその系列のルールにのって彼らは、たとえば地球なら地球へ来る場合、外宇宙から来る場合でも、銀河系または我々の太陽系以外の所から来る場合でも、「たとえば、自分もと金星の系列がある」と思えば、まず金星の人達とコンタクトをとって、金星という惑星のバイブレーション(波動)に合わせてから来ます。そして、そのバイブレーションを帯びて地球へ来るときには必ず月を経過して地球へやってくるというように、惑星のバイブレーションを非常に重んじます。それを全く無秩序にやってみると、バイブレーションが乱れることになるんです。

地球人でもそうだと彼らは言っています。たとえば、アメリカインディア人がアメリカに住んでいるのは、系列の上で意味があるんです。日本人が日本に住んでいるということは、その長いルーツを追いかけると、そこに住む意味があるわけです。

それは先祖の血のルーツが一つの理由としてあるだろうし、もう一つは、本人の過去の壮大なルーツにもより

ます。こうした複合的なものが、その人の系列を決める、というふうに彼ら異星人は価値観を持っているんです。

ですから我々が先祖とか家を重んじるという作業も、やはりどこかでそうした系列が大切なのだと感じているわけですね。

いまの日本人にとっては先祖を崇拝しなくても敬意を表さなくてもよいという若い人達もいるんですが、ただそうした系列を見ることがよって、自分達の発展してゆく道が見えるんです——系列というのは波動ですから。

「そうだと思いますね。ですから、その人の内面と、その人を取り巻く宇宙外面との波動の同調がどのように今起きているのか、それが非常にずれる場合と、非常に一致する場合とがあつて、それはどの空間をどういうふうに移動してゆくのかとか、どここのエリアにどれぐらいの年月を過ごすのかとか、そういった問題にもだいぶ左右されると思いますね。」

ですから彼ら異星人は系列ごとに場所にこだわります。そして交流する相手にこだわります。これははっきりしています。

異星人がコンタクトをする相手とは

——そうすると宇宙船が地球のどこかに着陸して誰かに会うということは、偶然ではなくて、何かの意味があると

いうことになりませんか。

「そうです。意味があるということでしょうね。ですから、その人の先祖及び過去世において意味があるからこそ会うということになるみたいですね。」

と同時に彼らももう一つ重んじるのは、その系列の子孫達のごへ広がってゆくのか、そしてその人はどこへ転生してゆくのか、という二つの問題です。ですから、その人の百代先の子孫からどういう人間関係が出てくるか、この人が生まれ変わっていったとすれば、どういう作業をしてゆくだろうという、一人の人間の未来に対する影響をもつていてのではないかと思われま

す。そういう背後の系列と未来の系列を含めた価値観のもとにコンタクトをするわけです。ですから、たとえば地球では階級的なもの見方がありますが、破産して乞食をやっている人間と、非常に大金持ちになつて人間との貧富の差とか、東大を出ているか出ていないかとか、単純な階級的なもの見方がありますが、そういうものはほとんど意味がありません。

そんなことよりも、この人間が後の子孫にどういう影響を与えるか、過去世でどんな経緯があつたか、という面で見ると、異星人はなぜ有名な政治家や科学者とコンタクトしないのかという

問題の答えはここにあります。

意識の永遠性に敬意を払う

この前、何かの本を読んできましたら、いま十代の政治家の息子達は、私は絶対に父の政治家の仕事を継ぎたくないと言っているんだそうです。たぶんそのほとんどは政治家という家系自体を断絶させようと思つてます。

この場合、もつと長期的な問題で地球という文明を異星人達は見守っているでしょうから、そうした場合、いま利那的な政治家とコンタクトすることは、異星人にとつて無意味なわけですよ。そこら辺が、地球人が異星人を見た場合の価値観、異星人から地球人を見た場合の価値観の違いということになつてくると思つてます。

その問題を理解しておれば、いまの異星人の行動が納得できるわけです。しかし、最近では経営者にコンタクトしたり、科学者や政治家にコンタクトする事例が公式的には増えているといわれています。これはたぶんそういう職業にある人達が、自分の職業の価値観にこだわらなくなつたからだと思います。そして時間という枠で限定しない意識の永遠性に対して、異星人達は相手が地球人であれ、非常に敬意を払うのです。

地球人が他の惑星人と交流する時期は近づいている

来世紀に地球が別な惑星の文明の存在に目覚めて、それらと交流するようになるのは、私は案外早く来ると思うんですが、これについてはどうですか。

「そうですね、今のところではいろいろの情報からみて、地球人が太陽系の別な惑星と交流するのは二〇一〇年なかばから二〇四〇年までのあいだとみえています。この間には、どっちにしても具体的な彼ら異星人との交流が本格化するだろうと思いますね。」

現在の段階でも間接的ではありませんが、テレパシーで彼らの情報をキャッチしたとか、宇宙的な考え方に目覚めるとかというような体験をするとか、またはUFOの波動を感じたという人達の数が増えつつあるという状況です。これ自体が異星人の意識と交流する時代がすでに始まっているんだと言えます。

いまはオープンにUFOの話を書きながらするようになっていきますし、異星人の乗り物としての宇宙船のイメージが、我々の意識の中でごく身近なものになっていきます。

一方では一部の学者やマスコミはUFOに対する否定的な見解を表面に出して、これこそ「知性」だと言っているわけですね。よくアメリカのUFOの

研究者のなかで、特にどっちなかというアカデミズム寄りの人は、本を書くにしても、最初から「実は私はUFOを見たことは全くない。ないからこそ客観的に研究できるんだ」というようなことを書くわけです。

そういうことによって自分がエキセントリックな体験者ではないということとをほのめかし、そして学者的な権威を保とうとする傾向があります。しかしなにか知性的なアカデミズムなるものを我々に恵んでやっているんだ、としか感じられませんか（二人で笑う）。

科学者は

異星人を恐れている

UFOを批判的に研究している人達の論文によりみると、ある人がUFOを見たと言っているとしますと、基本的に考えると、それは九九パーセントが誤認だという前提で否定してしまうわけです。なぜならば非常に誤認しやすい物が空を飛んでいるし、また誤認しやすい物が多いということも理由にするわけです。

しかしそんな論法そのものが、今の科学の権威をもっている人達が異星人に対して無意識の恐れをいだいている状態の象徴のようにしか感じられませんが。

科学者の場合、今の日本の学会の状況は、東洋的な「気」のように、そうした精神的な価値観を基準に置こうと

する科学者と、あるいはそういうものに対する反動として西洋的合理主義や唯物論などに基準を置こうとする科学者が、非常に多く対立している感じがしないでもないですね。

ただ全面対決になりますと学会が混乱しますので、とりあえず双方がいくつかのタレント学者を容認しながら、ほかの大御所達はそういう連中に論争させることによって成り行きを見守っているという感じがしますね。

金星にはお金が存在しない

金星人は意識透過性といいますが、人々にはパイプレーション（波動）があつて、ある人が今日はこういう物を食べたいと思つたとしますと、その想念は本人の意識の状態に非常に必要なのです。そして与えられるのが自然だということであれば与えられるというわけで、「求めよ、さらば与えられん」のシステムが非常にしっかりと確立されています。

ですから、彼らはお金のかわりに非常に簡単なプレートを持っています。それは我々のテレホンカードよりも少し横長の大きめのカードですが、それは少し厚みのある薄い石板のような物です。

これを金星人はふだん胸のあたりとかベルトのあたりとか、その人のパイプレーションを感じしやすい場所に身

につけているのです。それで、今日はこういう本を読みたい、こういう食べ物が食べたい、こういうことをしたいと思えば、そのカードを取り出して、ある特定の機械に入れると、そのシステムによって、その人の望む食べ物、望みの学習素材などが与えられるんです。これは意識透過性とも言うべきものです。したがって金星にはお金がありません。

一方、地球上のお金というのは、その人の意識にそつて確実に一〇〇パーセント連動して動いているかというところ、少しづつズレがあります。それは形に基準をおいて、心の価値を認めていないからです。

ですから、たとえばビルを沢山所有している人は、それなりの、普通のサラリーマンよりも苦労したんだろうというところでお金が沢山入ってきます。または会社をでつかくした人は、普通のサラリーマンよりも苦労したんだろうというところで多くの収入が与えられます。ところが非常に荒つっぽい虚偽なやり方をしてお金を集めた人もいます。しょう。そこでお金の流れというのは、物にだけ基準をおいていると非常に不平等なズレが出てきます。

しかしズレがあるけれども、地球のお金だつて、ある程度はお金が入る意識、入らない意識といったものが存在します。

一方、金星ではそうした点の評価に

関しては、必要な物が誰にも非常に平等に与えられるような社会システムが確立されているんです。これは地球とは大きな違いです。

各惑星の文明の特徴

あとは先ほど言いました教育形態です。これは幼児期においては歌で教育しますし、若いうちには大母船で宇宙旅行をしたり、またはその惑星の文明全体のために自分が何をしているのかを明確に実感できるような作業に従事するのです。

さらに宇宙船の建造とか、こうした事のある特定の時期に行ないます。これはある種の共有の意識の結晶体として、モニメントとして、我々がUFOと呼んでいる宇宙船を作るわけです。これを作るときには彼らは意識的な意味を強くもっているんです。

金星の都市はドーム状の都市であったりしますが、そのドームごと惑星間を航行したりします。または母船ごと都市にしてしまうこともできます。

こうした都市的な面では金星も水星も大体に同じですが、金星と水星、または金星と木星や土星間の違いがあるとすれば、それは先ほども言いましたように系列的な違いです。

たとえば金星人達は非常に「愛」の概念に積極的に取り組もうとする価値観をもっています。ですから、他人に

何かをしてあげることによって変化が生じますし、してあげることによって見返りを求めてはいけなく、という非常にはつきりとしたボランティア的な概念を持っています。ですから、「愛」という概念に非常に価値観をもっているんです。

一方、水星人達は「認知」に重点において、古来からの歴史、古来からの習慣等を中心に歴史的な予測をし、そういう壮大な歴史的な価値観に基準をおいています。

しかし、どこに基準をおくかという点では、それぞれ皆さんは自由なんです。それぞれの惑星単位でも系列単位で自由なものをもっています。

たとえば歴史観のものに基準をおいたとしても、愛に基準をおいたとしても、その人達が基本的なものをクリアーしていれば、それぞれの生活形態はそんなに大きく違うわけではないわけですね。たとえば地球人でも非常に歴史を重んじる人がいますし、家を重んじる人がいますし、科学を重んじる人がいます。でもその人達が直接その場で拳銃で撃ちあっているかという点、そんなことはありません。ちゃんと生活しています。

ただし将来の目的に対して今何をやるか、ということに関しては、異星人達は非常にしつかりした発想を最初から持っているんです。それがないと文明というものはあり得ないというのが、

彼らの考え方です。それがないと必ず滅ぶんです。

これは地球人の我々にもあてはまるわけですね。たとえば会社一つにしても、会社の経営者が明確な目的をもって、今何をやるべきか、これから三年間何をやるか、というプランがしつかりしていないと、会社は滅びてしまいますからね。

日本で「コンタクト」している人達

——いま日本で異星人とコンタクトしている人はどれぐらいいますか。「そうですね。以前には数千名という数だったのですが、いま現在は数が非常に多くなっていますね。この数年急激に多くなったようですね。」

ただしコンタクトの段階に関しては格差がすごく出てきています。ですから異星人から公共放送で流されている波動をテレパシクに感じ取っているだけの人もいますが、それが異星人から来ているんだということを意識していない人が、ものすごく増えています。

たとえば芸術家が宇宙的なヒラメキによって宇宙的な音楽を作ったりします。しかし本人はこれは異星人から来る波動だということを感じていません。そこで私はこれを「潜在意識のみのコンタクト」と呼んでいるんです。そういう人達が非常に多いですね。これはまだ初期的なコンタクトの段階で

す。

その次に、宇宙から来ているようだと意識はしているけれども、しかしその表現手段としてチャネリング的（心灵的）なものがあるような人もいます。これは地球人の生活圏の中で説明がつくやり方で伝えようとしていない人達です。つまり感じてはいるが表現の仕方に深さがないんです。そういう人達が増えています。

次に、異星人からの波動だと認識してはいるんですが、表現手段としては地球人の自分が考えなくてはいけないという認識を持ち始めた人がいるんですが、こうした人の数はあまりかわっていないようですね。

そのなかで、ある一定の期間だけコンタクトがあつて情報が与えられる人、コンタクトをずっと継続している人、またはこの状態を超えてしまつて、いつでも自分が求めれば交流ができるし、求めなければ地球の作業に専念できる人、という非常に自由な状態になつた人もいますが、これもあまり人数は変わっていないようですね。

したがって、精神的なコンタクトをする人の人口は多くなつたといえます。ですから宇宙的なものを広く浅くでもいいから、理解しておかないと乗り越えられないようなことが、これからいくつが出てくると思えますよ。

（編者注）以上は異星人からの波動を

開聞岳のUFO

1994年6月28日、鹿児島市の日本GAP会員・抜迫英子（ぬきさこえいこ）さんが、ご両親や弟さんと4名で指宿市の隣の山川町へハイキングに行き、昼頃小さな公園で昼食休憩中、眼前にそびえる俗に薩摩富士と呼ばれる雄大な開聞岳（かいもんだけ）の上空に、世にも美しい不思議な虹が出現したので、カメラをかまえて撮影したところ、現像後に奇妙な物体が写っているのを発見。もしやと思い日本GAP本部を通して超能力者の秋山真人氏に鑑定をお願いしたところ、本物のスカウトシップであることが判明した。抜迫さんは宇宙哲学の熱心な実践家で、たびたびUFO写真を撮影する人。以前、山中から空中のスペースビープルへ強烈な思念を放射して弟さんの難病が治ったことがある。その記事はかなり前の本誌旧号に掲載した。

感じている人達を意味する。直接の対面ではない）
 重要なのは、宇宙開発とか、異星人と積極的に交流しようとする行為に対して、恐れをいだく人の数は圧倒的に少なくなっただけという点です。

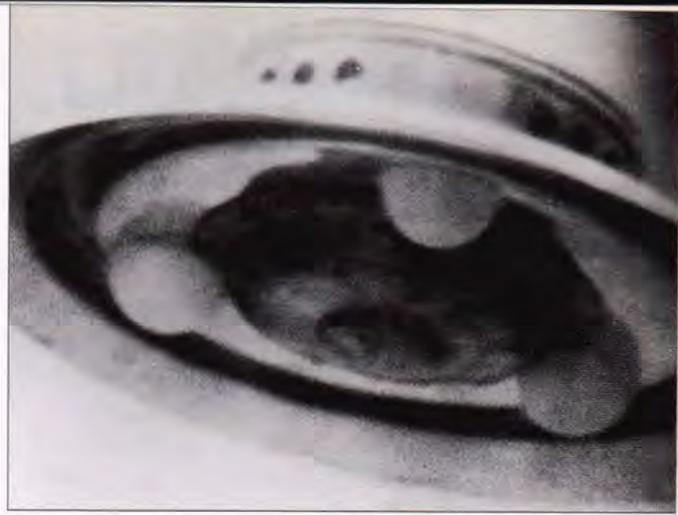
ですから、宇宙人に敵意がないということの認知はかなり感覚的な面では広がったのではないのでしょうか。
 ただし、宇宙人なんているわけはないと思っている人の方が圧倒的に多いとは思いますがね。



アダムスキー型UFOの 飛行原理を解明

● 遠藤 昭 則

I Have Discovered the key to the
Propulsion of Adamski-type UFOs
by Akinori Endo



筆者・遠藤昭則氏は古くからの日本GPA本部役員。多年アダムスキー型宇宙船の推進原理を研究し、すでに核心をつかんでいる。以下はその驚異の内容を簡潔に述べた記事であるが、ある程度のヒントは与えてあるので、丹念に読めば読者が原理を知ることが可能であるという。文中の重要な箇所の伏せ字は筆者による。ともあれアダムスキーが伝えた異星人からのメッセージ類が世界の文明を根本から変えるほどの知識情報を含んでいることは察知できるだろう。なお、この記事内容に関する筆者宛の照会質問等は一切お断りするとの由。

●与えられたメッセージ

アダムスキー氏が金星人オーソンと初めてコンタクトをしたのは、一九五二年一月二〇日、アメリカ、カリフォルニア州、デザートセンターでのことである（「新アダムスキー全集」第一巻『第二惑星からの地球訪問者』中央アート出版社刊より）。

そのときにオーソンは、自分の靴に彫られた図形を足跡としてアダムスキー氏に示している。従って、靴の方を見れば、その彫られているものは左右が逆になっていたはずである。

また、この靴と同じものかどうかかわからないが、母船に乗ったときにエレベーターの床にあるコントロール盤の操作を足で行なうことから（前掲書、

第二部より）、もしも同じ靴であるのなら、その彫りも幾分か深いことがうかがえる。

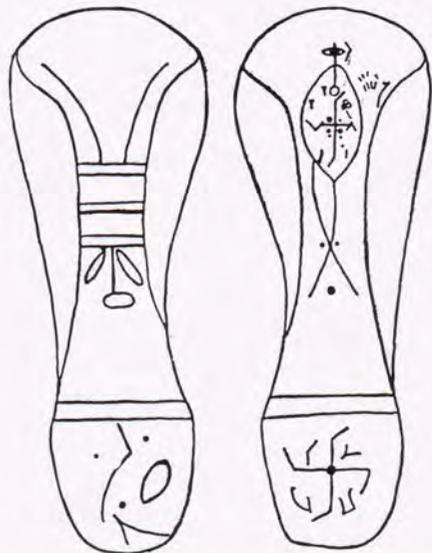
となると、それはいわゆる文字であつては不便であろうし、また靴を裏返しにしてその底を見るにも、文字ではなくて、左右反対にしても使えるようなものの方がよいであろうと思われる。つまり、足跡の文様は文字ではなくて、何らかの設計のための部品図、または部分ごとの図であることが考えられるのである。

アダムスキー氏に対して、この後、同じ年の五年二月一三日に、パロマー山の山腹、パロマー台地で、円盤からネガの入ったホルダーが投下される（前掲書、第一部より）。

そのときの円盤の位置はかなり低かつたようで、近くに住んでいたペーカ1退役軍曹が撮影した円盤の写真の右側には、円盤と同じぐらいの高さで交

左足

右足

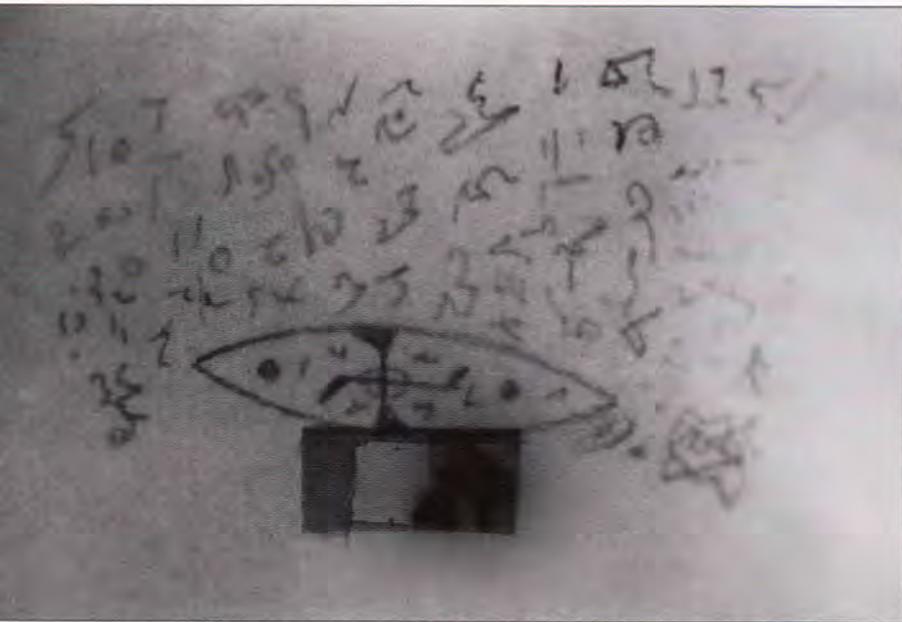


▲1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターでアダムスキーが会った金星人が砂地に残した靴の裏の文様。ここに宇宙船推進原理の重要な秘密が含まれていた。

通標識板のようなものが写っている。つまり、人が立ち、その肩に人を乗せて、上の人が手を挙げた程の高さを飛んでいたことになる。こんな至近距離で円盤を見たときの興奮は言葉にはあらわせないものであろう。

そしてなんと、この時にアダムスキー氏が撮影した四枚の円盤の写真（この内の四枚目は円盤が動き始めたときのもので、少し振れて写っている）は、このネガに写っていた奇妙な文字を解きあかすためのカギを示していたのであるが、それについては後述することにしよう。

とにかく、この写真をアダムスキー氏が撮影するときに円盤がじっと静止して、その姿をフォースフィールドによつてほとんど歪められることなしに見せてくれたいたのである（右上の写真）。この写真があまりにシャープなのでアダムスキーは疑われた。



▲1952年12月13日、パロマー山腹のパロマーガーデンズ台地に金星の円盤が飛来（10頁の写真）。アダムスキーが前月に砂漠地帯で金星人に貸しておいた写真のネガホルダーが投下された。現像したら上の写真のような不思議な文字と図形が写し込まれていた。この写真はネガから印画紙に直接に焼き付けた原写真で、むかしアダムスキーから編者・久保田八郎に贈られたもの。

●ネガの文字は UFO 船体の部分図だった

ネガの文字には一つとして同じものはない。詳しいことは「UFOコンタクト」誌の八九号、一一二号で述べさせていたので省略するが、要するに、これらの文字はUFO船体

の各部分をあらわしたそれぞれ別の断面図であったのだ。それを始め絵パズルのように組み立てていけばよいのだが、それではまるで子供の遊びか意地悪なパズルになってしまう。

まずパズルが完成するとどのようなものになるのかという完成図が必要である。それがなければ、ただあてども

なく行なうだけで、その絵が完成する確率は低いものになる。

では、その絵はあるのか。

実は、それがアダムスキー氏が撮影してきたUFOの写真なのである。そして不思議なことに、アダムスキー氏の著書に出てくる金星のスカウトシップと母船の内部の図面は、はめ絵パズルの各駒を当てはめていくための、組み込まれるべき駒の形がうつすらとついでいて、そこに置いていけば完成するよ、というような台紙になっていたのである。

これはどういうことであろうか。写真といい、書物中の図といい、それらに合うように彼らスペースビープルがネガを作ってくれたのであろうか。それとも、ネガの完成図と同じになるように、その図の映像を描き手やアダムスキー氏に送ったのであろうか。そうすればその絵は大体同じになるであろう。なぜなら、絵を描くときには、自分の内部にあるイメージを元にして描くのであるから。

また、駒の動かし方にも規則性がある。これは、外にばらまいた駒を持つてきて、あてもない、こうでもないとするよりも能率的である。また、重要な問題であるが、どうして彼らははめ絵パズルにしたのか、そして彼らはいつもこういう方法をお互いに使っているのかということもわかってくる。つまり、そこには、その各駒それぞれ

れが大切な見るべきものを持っているということ。そして案外と、横から水を流して動かしたように、きれいに同じ流れで簡単に組み合わせられていくことから、彼らがコンピュータを持っているのなら、いとも簡単にパズルは完成できること。また、その各駒がそれぞれ離れた位置に置かれているということは、例えば船体内の様子だけではなくて、配列を変えれば、または他に補助線を加えれば、他の物を示す図面として活用できることを示している。

「簡単に無駄のないこと」

これは一見どうということはないなりに思えるが、そうではない。かなり高度なことであり、また精神的にも進歩していることを示している。

●バン・デン・バーグ氏の発見

そのネガの文字と足跡の文様からさまざまな発見をした人物がいる。彼の名はパシル・バン・デン・バーグ。南アフリカの人だが、彼の発見については新アダムスキー全集第九巻「UFOの真相」と「UFOコンタクト」誌「第一二二号に詳しく紹介されている。

彼の発見したものは次のものである。

- ①金星の小型円盤の設計図
 - ②金星の母船の設計図
 - ③小型円盤と母船の推進方法
 - ④二個の強力な磁気モーター
- また、彼がモーターを開発したのは

一九六二年の南アフリカの新聞に掲載されたということであるから、それに近い頃にモーターは開発されたのであろう。

さらに彼の発見についてアダムスキー氏は、

- ①ネガの文字から小型円盤の設計図
- ②両足跡にネガの文字を加えて母船の設計図

◀南アフリカのUFO研究者バシル・ハン・デン・バーグが、アダムスキーの金星文字を解読して発明したフリーエネルギーモーターの模型。彼は記者団に発表してから謎の失踪をとげた。



③あれこれと配列をやり変えて、宇宙船の推進力と、パワーをコントロールする方法

をバン・デン・バーグ氏が発見したと述べている(新アダムスキー全集第六巻「UFOの謎」より)。

アダムスキー氏のこの書物は一九六一年頃に出版されているので、バーグ氏はその数年前まではまだモーターの完成がなされていないかたではないかと思われる。

●バーグ氏は五六年に円盤の設計図がわかっていた

ところが、同じ南アフリカにエリザベス・クララという女性がいる。彼女は他の惑星の人とコンタクトをしたということと本を出しているのだが、そのドイツ語版には、なんとバーグ氏の描いたと思われる金星の小型円盤のスケッチが彼のサインとともにのっていたのだ。

それもただのスケッチではなかった。一見するとバーグ氏のアイデアで描かれたように見えるのだが、実はそれがあのネガの文字から組み立てられた小型円盤の設計図に、ほとんど寸分違わずに肉付けをして立体的に見せているものなのである。

これは、小型円盤の設計図をネガの文字から改めて作成してみてもわかったことである。彼のスケッチには、一九五六年九月

と書かれてあるから、アダムスキー氏がネガの文字を公表してから三、四年後にバーグ氏はすでに解読に成功し始めていたことになる。

●金星の小型円盤の設計図の作り方

では、それらの文字をどうやって組み合わせていけばよいのか。まず、ネガの文字から金星の小型円盤の設計図を作り上げる方法について説明しよう。

①まずネガ全体を見て、小型円盤がどこに描けるか考える。それは考えるというよりも、そこに映像が現われてくるといつてもいいものである。

②得られたものを描いておく(図1)。私はさまざまな情報もあつて、それを参考にすればよかつたのであるが、それらが本場に正しいのか、なぜそういえるのかということをも考えた。それでもこの絵ができるのに二〇年かかっている。まったく何もない一から始めたバーグ氏は、スペースビープルからのテレパシーを本場にうまく受けながら行なっていたのであろう。

③そのときのコツは、あれこれ頭で考えすぎないで、「きつこうだろう」と気楽に行なつていった方がいい。

しかし組み合わせた図から得られる印象が、個人的または宗教的な満足感であるなら、それは間違つて組み合わせせてあることを示唆している。



④各文字の流れには規則性がある。それは図2の矢印で示してある。全く簡単である。これはパソコンで図形を描いていくときに、ある図形を移動したいときにはその周囲を長方形で囲み、移動していく方法と同じである。ただし、拡大して調べるといくらかの歪みがあるので、ネガの写真からは

図2 (11頁の金星文字を組み合わせたもの)

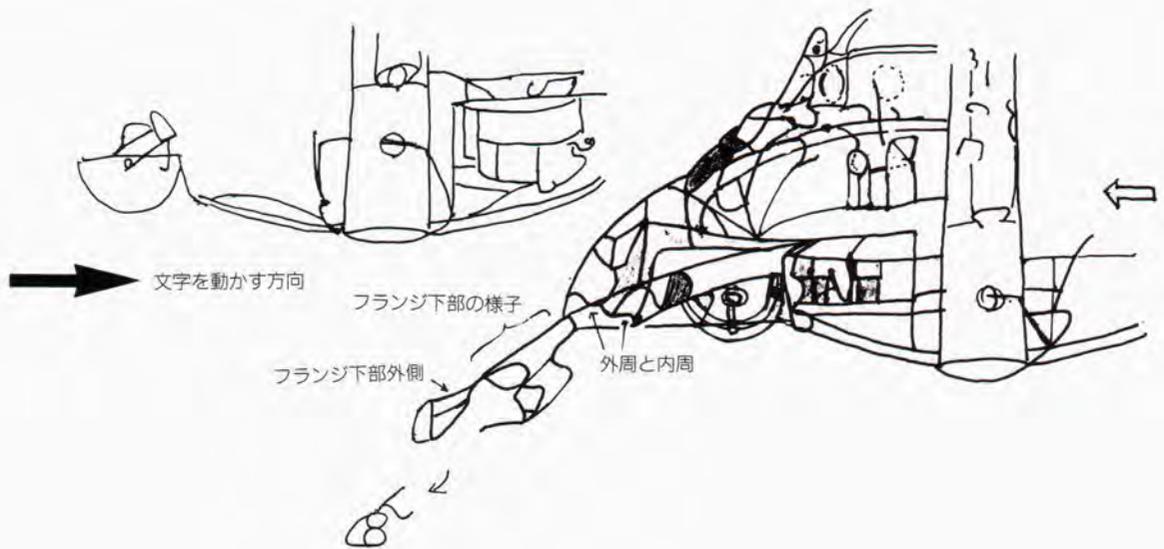
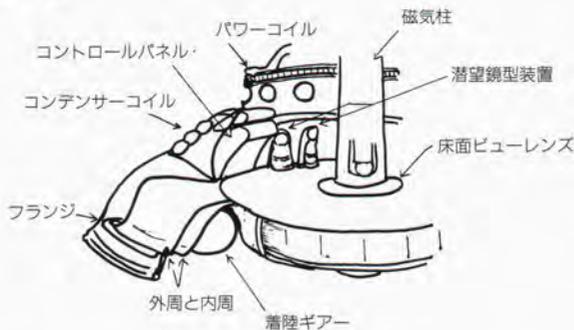


図2-2



直線的にならないものもある。それに
惑わされずに組み合わせる必要がある。
そうして設計図ができあがる。
だから、五〇年代にパソコンが普及
していたら、バーグ氏はもっと速やか
に各文字を組み立てていただであらう。
また逆に考えれば、現代科学の進歩が
いかに早いかということが、ここから
改めて認識させられる。
よく見ると随分と簡単な構造である。
しかしそこそこ深い意味が隠されて
いるのである。

●金星の母船の設計図

金星の母船の設計図は、足跡とネガ
の両方にある、紡錘状の中に十字のあ
る図形が基本である。

まず、図3-1のように足跡の方の
紡錘状のものの中に直線を引いていく
と、船体の大まかな設計図ができあ
がる。

そしてネガの紡錘状のものの中にも
同じように直線を引いていくと、また
船体の大まかな設計図(図3-2)が
できあがる。

その二つを組み合わせると母船の図
面となるのだが、動力となるものがな
い。

その動力を知るには、左足の不思議
な文様(図3-3)、そして再び紡錘
状のものの中を見る必要がある(図
3-4)。

でも、これらはただの外観である。
では内部はどうなのか。それは右足
のかかとの十字(図3-5)の図が物
語っている。

これらを組み合わせてできたものが
図3-6である。

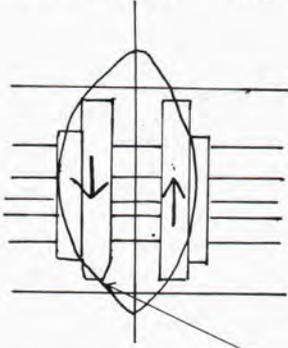
小型円盤のときと同じように、簡単
な構造である。

●磁気モーターの謎

では、何の動力なのか。そしてその
動力とはどのようなものなのだろうか。
まず新アダムスキー全集のさまざま

図 3-4

中央の磁気モーター (右足跡より)



後部の磁気モーター (10頁の左と右の足跡より)

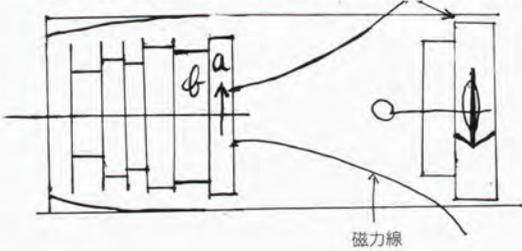
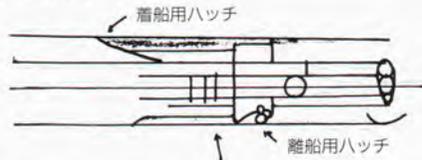


図 3-1

右足跡より



金星文字より



図 3-2

離船用ハッチ

右足跡のカカトの部分より

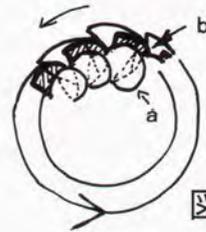
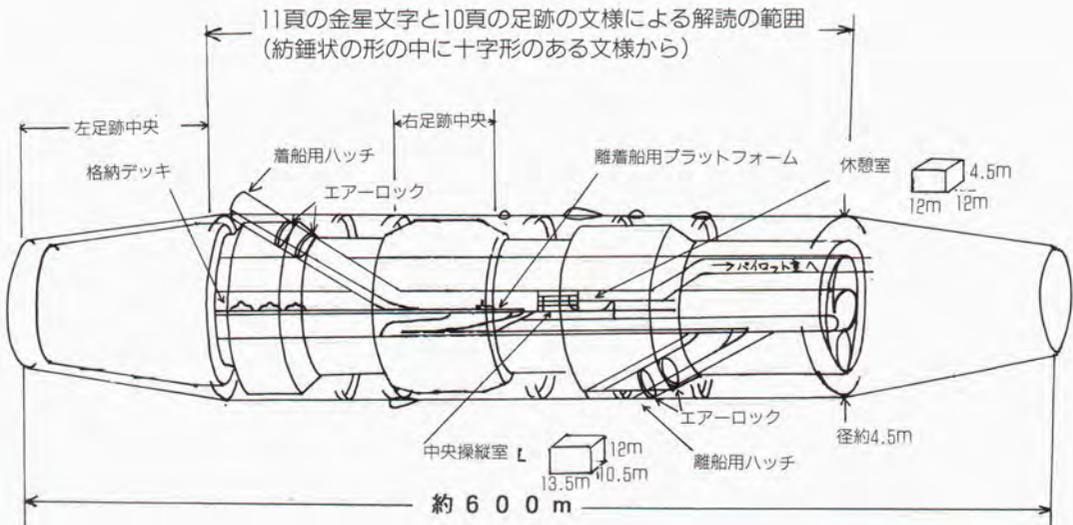


図 3-5

図 3-3

図 3-6 (図の縮尺は新アダムスキー全集第1巻の図に合わせてある)



なところから、推進力を生み出すヒントとなるようなアダムスキー氏の説明を拾いだしてまとめると次のようになる。

- ① 私たちは静電気の海の中にいる。
 - ② 静電気を脈動する状態に変えると、それは磁気的な推進力となる。
 - ③ 地球などの惑星は磁気の波を生み出している。太陽もそうである。
- それは大気中から宇宙空間に広がっている。

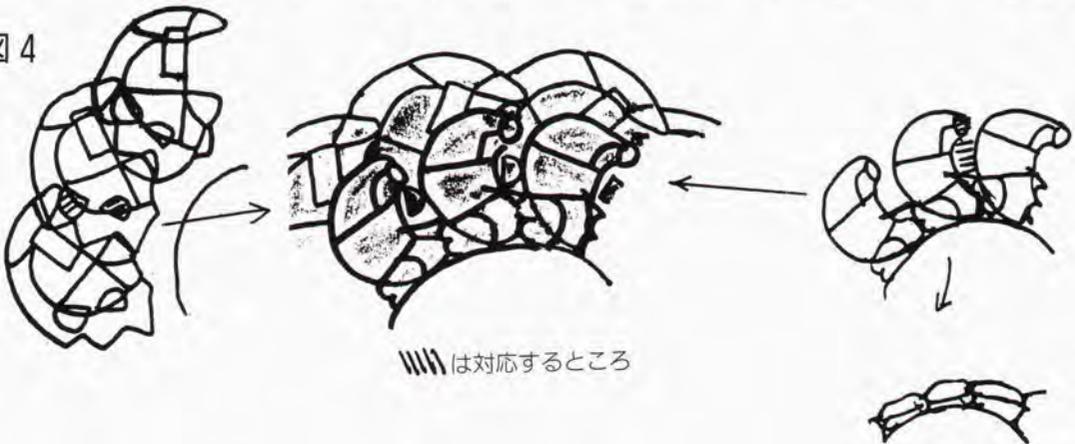
④ 惑星間の磁気の波は交差している。ところで、これから推進力へとどうつなげばよいのだろうか。また、地球の静電気がどこからどのようにして生じているのかわからない。

しかし地球の静電気として、大地には負の電位が、また電離層には正の電位があり、大地と大気層との二重層によってそれが保たれていることは認められている。これは一メートル上に行くくと一〇〇ボルト正に帯電することを示している。

それに似た、ヒントとなる書物があつた。それはジェームズ・チャーチワードという人物が書いた、今から約一万二千年前に太平洋に沈んだというムー大陸の宇宙科学について書かれたものである。その書が正しいかどうかはわからないが、調べてみる価値はある。その書物によると次のようになる。

① 重力と呼ばれている磁気は、地球上の人その他の物に働く。

図 4



② また、その磁気は地球内部の二つの層の回転速度のずれによって生ずる摩擦に起因する。

③ その磁気は単なる磁石の磁気ではないが、電磁気である。

チャーチワードは静電気ではなくて磁気という言葉を使っている。これをアダムスキー氏のいう、静電気の脈動状態という言葉に変えて考えるとよい。しかしどうして脈動するものになるのかという説明をチャーチワードはしていない。

宇宙船を作ることとは、一つの惑星を作ることと同じだという印象が強い。チャーチワードのいう摩擦により生ずるものとは、単なる静電気なのであるか。その可能性は高い。そして彼のいう自然の磁気とは、それに何らかの力が加わって、静電気が脈動する状態になって大気中に出てきたものをいうのではないだろうか。

これらから、惑星のような宇宙船を作るためには二つの要素が必要になる。それは、

① 外周と内周を回転させるなどして得られる静電気の場合。

③ それを脈動するための力。

外周と内周は、小型円盤と母船の図に描いてあるように、その両者にすで見られる。

これについてスペースピールの一人はアダムスキー氏に、小型円盤の下から見える三つの回転リングは、ジャ

イロスコープ的な安定を船体に持たせるとともに、高圧静電気を発生させる発電機にもなっていると述べている。

したがって、謎の動力装置は、この外周と内周が回転することと関係がありそうだ。実際、小型円盤の下部にある動力はモーターであり、それをあらわしている。

そして足跡の文様から得られた母船の中の装置も同じものなのである。

これこそが一般に「磁気モーター」と

といわれているものだ。母船となると、その巨大さは目をみはるものであろう。

しかしここで、次のような疑問がでてくる。

● その磁気モーターの構造はどのようなになっているのか。

● 静電気を脈動させるためにも磁気モーターは使われるのか。

● **バーグ氏の写真だけではわからない。**

バン・デン・バーグ氏の開発した磁気モーターの一部分の写真は一枚発表されている。しかしそれだけではわからない。

とにかく足跡の文様に秘密がある。そしてそれらの文様を見ることによつて、スペースピールとの経路ができてくる。写真だけ研究していても進歩しない理由はここにあると思われる。文様から得られるメッセージは一日

●誤って考えられてしまった

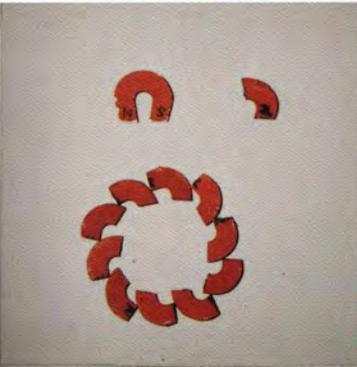
にごくわずかである。しかしそれを続けることによって、確実な重みが増してくるのを実感できる。

そこで、写真やその他の情報から考えられることについての実験をしてきた中で、何の効果もなかったものについてあげておこう。なぜなら、そのようなことを知っていれば、何らかの実験をするときにそれを行なわなくてよ

3-1
3-2



4



1-1
1-2

2-1

2-2

▶馬蹄型磁石を並べた各種の写真。この並べ方次第で誰も気づかなかった凄い秘密が浮かびあがってくる。



5-2



5-1

転しない。

⑤馬蹄形磁石群を写真4のように配置し、その中心に棒磁石を置いて回転しない。

⑥大小の馬蹄形磁石群を逆方向に配置して重ねても回転しない。また、その中心に棒磁石を置いて同じことである。

写真の配列は二枚の自由に回転できる台で行なった(写真5)。

またこれらの配列には、

●磁石と磁石がくっつくように配列した場合、

●磁石の間をあけて配列した場合、

●磁石に何らかの形に○○を○○て配列した場合、

●写真のものを二枚互いに向き合わせ、手で同方向または逆方向に回転させた場合

も行なってみたが、どれも同じであった。

●**そうであるべきだという考えを変えて、まったく反対のことを考えてみる。**

ではどうしたらよいか。五つあげたことは、一度は実験してみたいものであるだろう。

しかも簡単なものであるにもかかわらず、実験する人は少ない。そして、これらの結果から、ではどうしたらよいかと考える意欲を起す必要がある。

そのためには、そうであるべきだということ一度捨てて、まったく反対のことをあてはめて考えてみる必要がある。それも、学問として習ってきたことを捨ててしまうのではない。例えば、AにBが接続するはずだというこれまでの自分の考えを、BがAに接続するのではないのかというように変えてみるのである。

そうすれば、まず磁石群の配列の仕方がわかってくる(確かに配列するようなのである)。

●二つの磁石の組み合わせ

ネガの文字の紡錘状周囲のものは、図4のように、ある装置をあらわしているようだ。つまりバーグ氏の写真のもの。

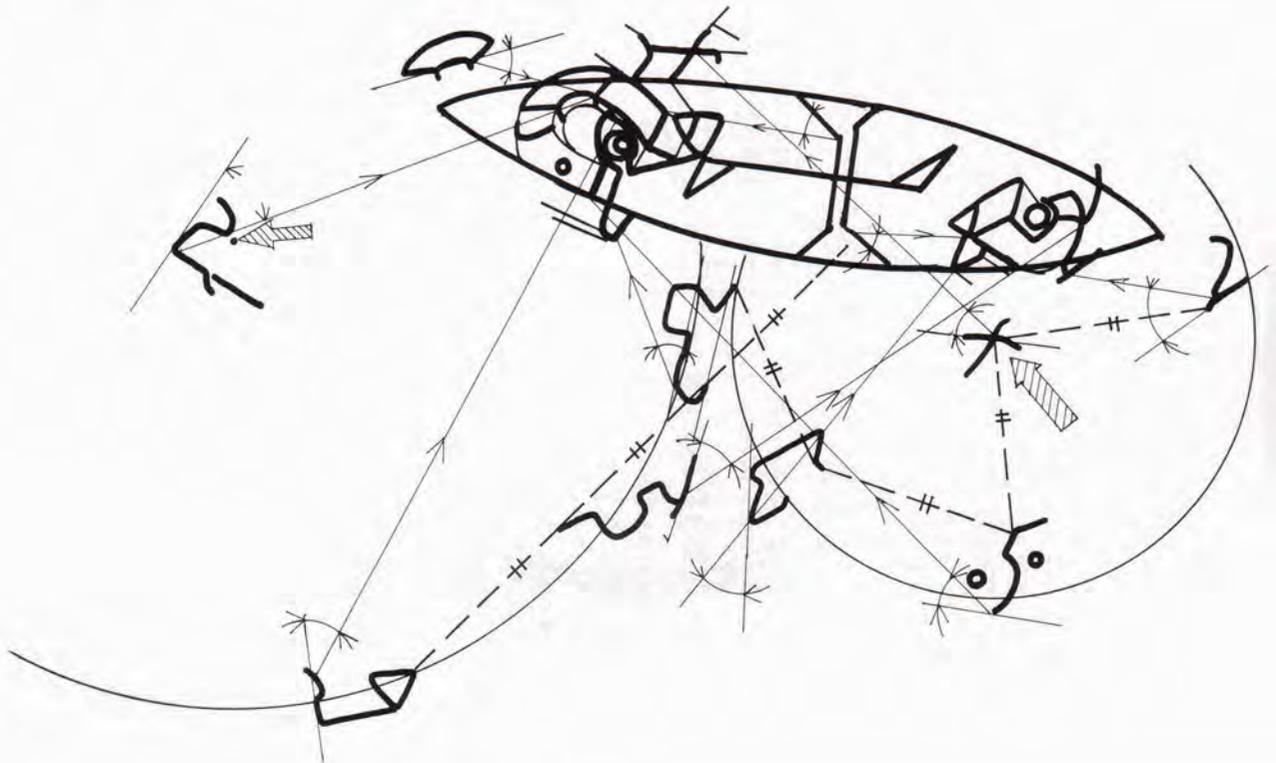
そして紡錘状の中には磁石の形ができあがるのは幾分かは知られたことではあるが(図5)、それについてはどうも勘違いされているようだ。

あの図は大小二つの磁石をその図の配列のようにして並べることをいうのだと、したり顔で言ってくる人もいるが、そうではないようである。

図は足跡の文様と大きな関係があり、その文様そのものをあらわしている。ここにカギがある。そして文様と異なるところはただ一つ。○○○があることだ。

このネガと足跡の文様によって磁石の配列などがわかる。また、一つの磁

図5



石とその周囲からのエネルギーの流れも。それは磁石を均等に三分割して考へることにもつながるだろう。

そして意外にも磁石の配列ではなくて組み合わせについて、私たちはこれまで錯覚をしてきたようなのだ。

●小型円盤（スカウトシップ）はどう動くのか

地球についての説明でわかるように、小型円盤はまず静電気場に取り巻かれていなければならない。

タウンセント・ブラウンという人物がいた。彼はアメリカで電気重力というようなことを研究していたのだが、その彼の発見として、地球に対してマインナスの静電気を持った物体は大地から上に行く傾向にあり、プラスの電荷を持ったものはその逆の傾向を持つというものであり、実際に実験も行なっていたようである。

それなら船体をマインナスに帯電すれば上昇していくのかというと、そうでもない。これにはバランスをとるためにプラスの電荷も片側に必要になるのだが、それについては日本の内田秀夫工学博士の発見が重要なカギとなる。それは、大きなマインナスの場を下に、また小さなプラスの場を上にする必要があるようなのだ。

しかしそれだけでもだめで、それだけでは、単に地表に対して水平に回転運動をするだけである。——これは大

気のあるなしに関係なく動くということでは素晴らしい発見なのだが——。

それについてはアダムスキー氏が、静電気場の推力をヴァンデ・グラーフ静電発生装置との対比で説明している。

その装置の近くに金属片を持つていくとその球の周囲を勝手に回りだすというものであるが、実際に試すとそうはならない。そのためには、金属片に糸を結びつけて上から吊るしておかねばならない。

これは、江戸時代に平賀源内の影響を受けた人が、天体の動きの模型として作成している。

つまり、その方法で単に回転運動をするだけである。

そこでその静電気場に脈動する力を与える必要がある。

これについてアダムスキー氏は、交流電磁コイルの周囲に置いた銅板が空中に静止する実験を例に出している。

それではと、ニコラ・テスラの発明によるテスラ・コイルで静電気のような高周波を使えばどうかと最近いわれるようになってきたが、それについて疑問が生じたので、友人の日本GAP会員杉山敏樹氏にたずねてみた（彼は自由エネルギーの分野では、日本でも傑出した人である）。

すると彼も、現在普及しているテスラ・コイルでは周波数が不安定であることを指摘した。

自由エネルギーの研究では、火花放

電に謎が隠されていると最近いわれている。しかし火花放電は雑音と同じで、不安定な沢山の波を放っている。

普及のテスラ・コイルはその形式であるために、高周波の粗雑な振動を放っているのだ、コイルを起動するとその周囲にはあまりよくないオーラが出現する。

そして火花放電にはまだよくわからないことが多々あるので、自由エネルギーが見つけられないようにするためには、そしてその研究が遅滞することをめざすのであれば、テスラ・コイルと火花放電のような実験に飛びつかせておくことが得策なのかもしれない。

では、小型円盤ではどうなのだろうか。火星入フアーコンはアダムスキー氏に、小型円盤中央の磁気柱について説明している。その磁気柱が自然の力を集めて三個の球形着陸ギアに送ることを、それも静電気であると……。

しかし静電気が外周と内周の間で作られるのであれば、これはどんな静電気なのだろうか。そのカギが先程の交流電磁コイルの例にあてはまるのではないだろうか。つまり、磁気柱またはそれと何かの機能とが作用して脈動する静電気を作りだし、それが三個の球形着陸ギアに送りだされ、外周と内周の間で作られ出した静電気場を波打たせると考えればよい。

それで地球の脈動静電場と共鳴させて引力を無効にするのであろう。

そうすると、船体のフォースフィールドの色がなぜ変化するのがわかってくる。そしてパワーコイルが輝くのも。

それらは静電気場ではあるのだが、脈動しているのだ、磁気場になっていくのだ。したがって、周囲の大気はイオン化されるのだが、そのイオン化による発光も、静電気によって原子周囲の電子がとれたりするものではなく、ゼーマン効果のように、原子の振動数が変化するために発光することも考えられる。

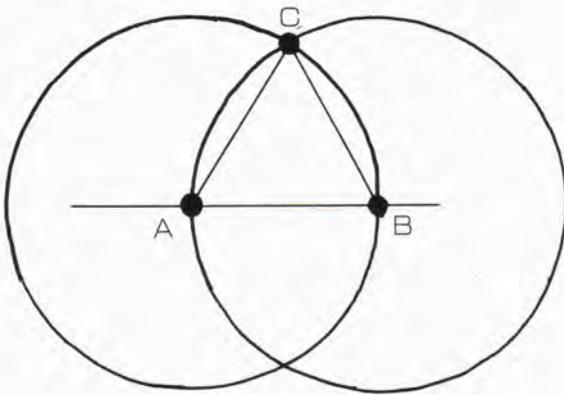
すると船体表面の電子群も、それこそ一般に考えられているようなこととは異なり、もつと当たり前な働きで船体を包み始めるのではないだろうか。

●三位一体の原理

三位一体ということのアダムスキー氏はよく述べている。二つの力によって第三の力が現われるのだが、これは三角形の作図と同じことで、図6のように、二つの中心から放たれる力の円の交点に第三の力が現われることをいっているのだ。これはアダムスキー氏のいう、惑星間の交流槽円磁場上に点をとるときと同じことであろう。また天の三位一体と地の三位一体があることも述べている。

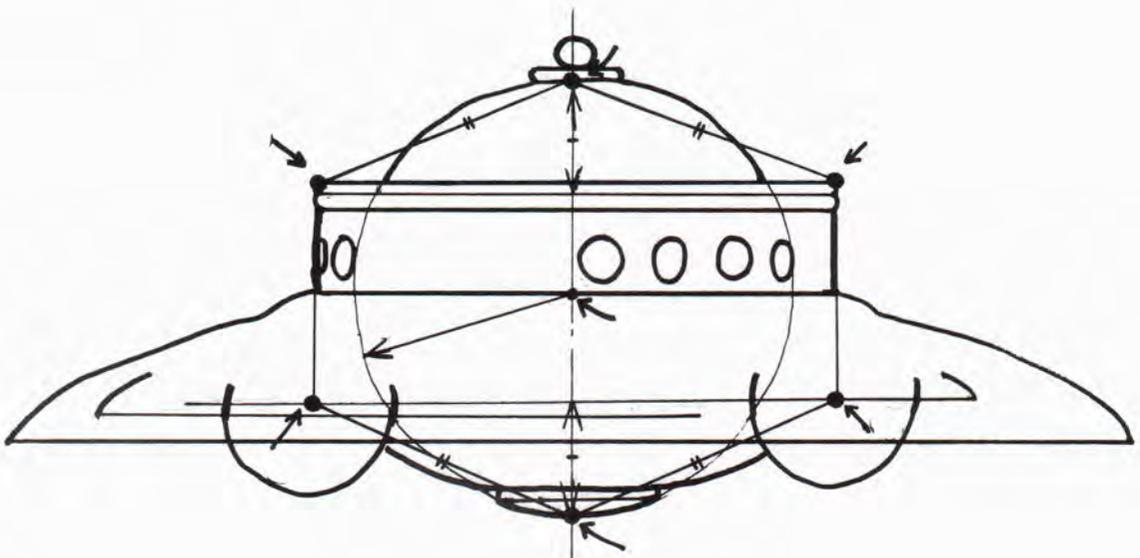
一般には、この天の三位一体と地の三位一体とが合わさった図は、二つの正三角形が重なって六つの先端を持つ

図 6



1 + 1 = 3の原理
 Aの力とBの力によって第3のCの力
 ができる。
 そのCの力はAの力もBの力も持ち
 合せている。

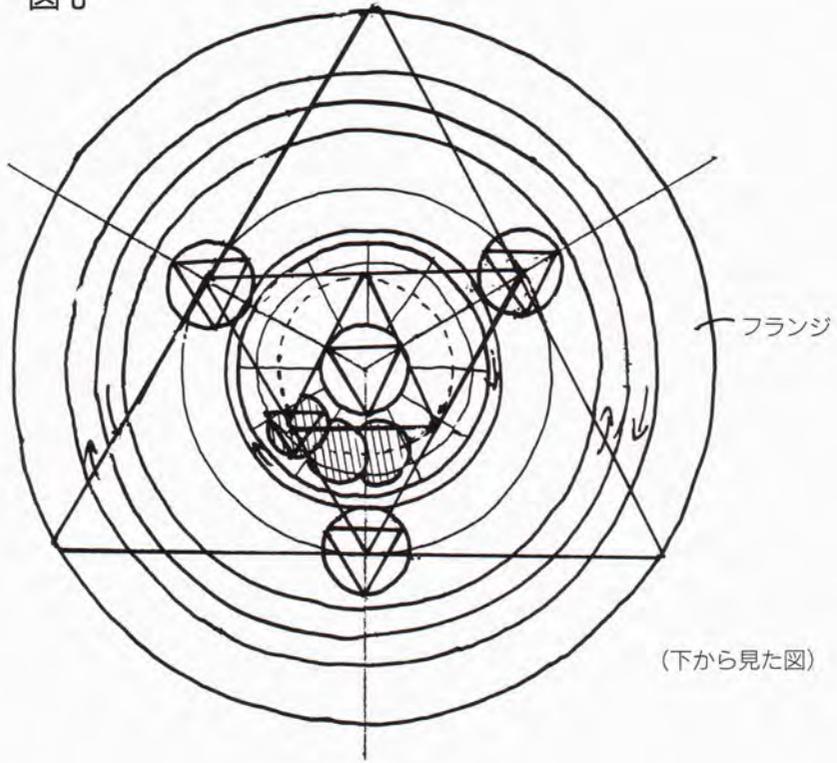
図 7



星の形であらわされている。
 しかし天のものと地のものとの間には、そのバランス点が生ずる。そのように考えていくと、三位一体は図7のようになる。
 それを小型円盤にあてはめると、どこが脈動推進力になっているのかがわかる。つまり、磁気柱の上端とパワーコイル、磁気柱の下端と球型着陸ギアである。
 母船では数個のベルトが球型着陸ギアの代わりであるということから、そのベルト群に脈動推進力が生じているのではないかと思われる。それによ

って母船の周囲に生きているような脈動現象が見られるのではないだろうか。また、小型円盤を底から見た図8には丸の中に正三角形がある図ができる。これは円盤の構造原理にあてはまるものように、万華鏡のような回転を象徴したものとなる。
●自然界に推進原理はある。
 ささまざまな謎は、アダムスキー氏がいうように、自然界の中に、その設計図として隠されているのであろう。例えば、ゾウリムシの繊毛がある。この断面図(図9)は、磁気モーター

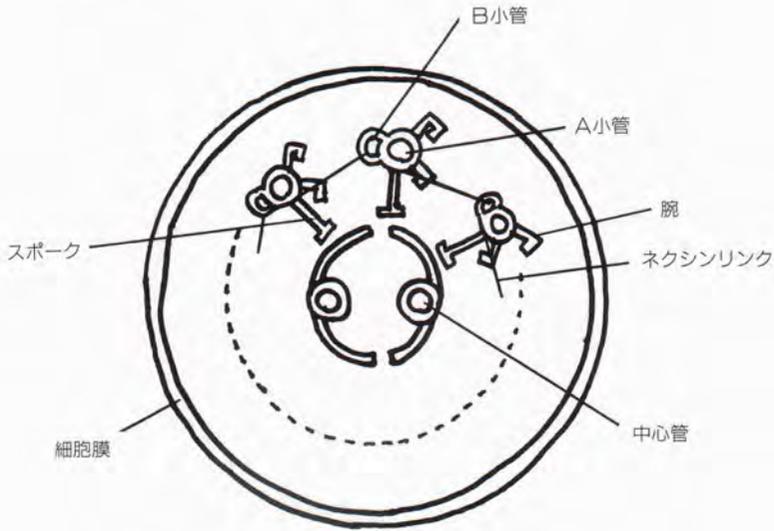
図 8



を想像させる何かがある。
 そして、他にも植物の花や鉱物の結晶構造などいろいろなところに、三角形の原理も隠されている。自然の美しさの中にあると、これらの中にこそ推進原理が隠されているのではないかと

思えてくる。
 そして磁石群と静電気については現在も研究中である。アダムスキー型 UFO の推進原理が一般に実用化されれば地球文明は大発展をとげるだろう。アダムスキーは絶対に真実だったのだ。

図 9



周囲に 9 本の管がある

★盛況、第一回高松支部大会

既報のとおり、第一回目の高松支部大会が去る五月二十八日に高松市の「高松テルサ」で開催された。連休でなくて普通の日曜日であったために、出席者は約三〇名にとどまったが、非常に真剣かつ熱気の溢れた会合であった。数百名の集会に匹敵するほどの雰囲気、久保田会長は述懐している。翌日は一名で観光に出て高松の各地の名所を探訪、戦後の発展ぶりに感嘆した。詳細記事と写真が本号四四頁に掲載されている。

★八月の東京月例セミナー開催日の臨時変更

東京月例セミナーは毎月第一日曜日に開催されているが、八月だけは都合により第二日曜日の一日に臨時変更される。また会場も第二研修室から隣の第一研修室に臨時変更されるので、ご注意のほどを。

★九月の本年度日本GAP総会

恒例の本年度総会は来たる九月二三日（二連休の初日）、都内港区芝公園の機械振興会館地下二階の大ホールで午後一時より五時まで開催される。今年には国際気能法研究所長、哲学博士・秋山眞人氏による「別な惑星の文明と創造性について」と題する講演が行なわれる。終了後は同会館六階のホールで盛大な夕食会を開催。詳細予告が本号49ページに掲載されている。

★米ワシントン市のアダムスキー大会

既報のごとく本年九月八、九、一〇日の三日間、アメリカ・ワシントン市において、アダムスキー問題に関する研究大会が開催される。具体的なプログラムその他については主催者側が調整中であるが、世界からアダムスキー研究者や団体主催者が一堂に会して、各自で研究発表や講演を行ない、最後は円卓会議で締めくくることがなる予定。その結果、国連や米政府へ働きかけてアダムスキー問題普及活動の隆盛化を図るといふ。日本GAPの久保田会長はこの大会開催の企画委員の一人であるので、日本代表として出場し講演を行なう予定。

なお、これに関して日本GAP内の若手会員で結成している黎明会（代表・津田篤孝、幹事・加藤純一）は、会長の応援と観光を兼ねてアメリカツアーを企画している。この詳細予告も本号四七頁に出ている。すでに参加希望者は一二名に達しているが、まだ人員に余裕があるので、希望者は至急に申し込まれたい。アメリカでの見学地は首都のワシントン市とニューヨーク市になる予定。これは従来日本GAPが毎年夏に実施してきた海外研修旅行とは別な企画。いわゆる海外研修旅行は不景気のために今年は中止する。

★横浜支部報「ワンネス」刊行

「ワンネス」第3号が五月に刊行さ

れた。B5判二三頁の堂々たる機関誌で、冒頭には昨年三月二〇日に開催された第一回横浜支部大会における久保田会長の「宇宙哲学で奇跡を起こす方法」と題する講演全文が掲載されており、その他興味深い記事を満載している。これは同支部の清水正代表がみずから和文タイプライターを操作して製版し、オフセット印刷所へ印刷を依頼したもので、立派な刊行物となっている。希望者には無料で贈呈するとのことなので、欲しい人は左記の代表宛、郵送料一九〇円を切手で同封して申し込まれたい。

〒一七一 東京都豊島区西池袋

三一八一—一七

清水 正

★伊藤睦史氏、パナマより帰国

数年前より青年海外協力隊員として中米のパナマで活躍していた日本GAP会員・伊藤睦史氏が任期を終えて帰国した。今後はまた日本GAPのために協力活動を展開するというのが具体的な内容は未定。

★日本GAP特別維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に特別維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、普通会員がさらにGAPの運営と発展に貢献するための援助活動であって、絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が個人で毎月発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが

各人に贈られる。これにはユーコン誌に掲載されない秘話や会長独自の宇宙的能力の開発法、宇宙哲学の解説、行事の速報、その他が満載されている。加入希望者はハガキに「特別維持会員案内書送れ」と書いて日本GAP宛に出せば案内書と振込用紙が送られる。ただし普通会員でない人が特別維持会員になることはできないので注意されたい。エッセイ「意識の声」は今年四月号より美麗オフセット印刷になって読みやすくなった。A4判紙面にぎっしり印刷された記事が三頁分あって、読み応えは充分。これを綴じて保存している人が多い。

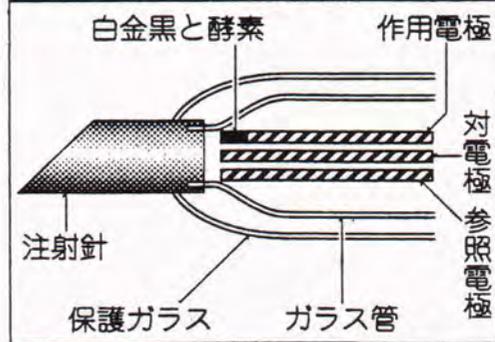
★読売新聞社より取材

六月上旬、読売新聞社より久保田会長宛に取材があった。これは日本の代表的な精神世界探求団体をシリーズの形で同新聞に掲載する企画のもとに行なわれたもので、掲載日は未定なるも、いずれ日本GAPの趣旨と研究活動の実情が報道されるだろう。

★久保田会長の新著書の発行企画

会長が多年本誌に掲載したアダムスキー哲学関係の記事や論説を一書にまとめた新刊書の発行企画が某出版社で進んでいる。今秋には書店に出ると思われるが詳細未定。今後もアダムスキー哲学の実践法その他に関する記事をたびたび執筆して本誌に掲載する予定という。読者の原稿も期待しているので遠慮なく応募されたい。

センサーの仕組み



採血せずに血糖値測定

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所のグループが、糖尿病患者が自分の皮膚に刺し込むだけで、採血せずに血糖値を測れる簡易センサーを開発した。糖尿病による網膜症で視覚が不自由な人でも検査でき、将来は血糖値を機械音声で知らせる装置とつなぐこともできるという。

新しいセンサーは、ステンレス製の注射針の一方にガラス管を差し込み、このガラス管を通じて針の穴に向けて電極線を通す。毛細血管が集まる手足の指や耳に針を刺し、針の穴を通してきた血液内の血糖値をこの電極線で測る。

作用電極は直径数十マイクロメートルあり、先端は白金の表面に粉末状の白金をつけた白金黒で、表面にブドウ糖酸化酵素をつけてある。この酵素を触媒に血

液中のブドウ糖と酸素を反応させ、グルコン酸と過酸化水素に分離する。

作用電極と参照電極の電位差を0.5ボルトにしておく、この過酸化水素は水素と酸素に分解される。この時流れる電流を対電極に流して測り、血糖値を割り出す。

測定時間は従来のセンサーの半分以下です。電極につける酵素を替えれば血糖値以外の検知にも使える。(3・31朝)

「かいこう」世界最深部に

地球上で最も深いマリアナ海溝のチャレンジャー海淵で海洋科学技術センターの無人深海探査機「かいこう」が、水深一〇九一メートルの海底に到達した。巨大地震の仕組みや地球環境変動の研究などに使われる。

「かいこう」は海底を動き回る本体と、これを抱えて潜る発進機とからできている。支援母船「よこすか」一発進機一本体の間は、それぞれ二〇〇〇メートル、二五〇メートルのケーブルで結ばれており、電力や操縦の指示を送る。(3・24朝)

日本海に空飛ぶ火の玉

五月三〇日夜に東北から北陸にかけて日本海側の各県で「空を飛ぶ大きな火の玉を見た」という情報が気象台や県警などに寄せられた。

山形県の酒田海上保安部職員が午後七時四五分頃、日本海上空の西の空でオレンジ色から緑色に変わる発光体を発見し、光は一―二秒で消えたという。秋田県男鹿半島では満月ほどの明るさで見えたという。(5・1朝)

断熱材中のフロン九五パーセント回収
冷蔵庫や建材の断熱材に封入されてい



「H2」三号機打ち上げ成功

純国産大型ロケットH2の三号機が三月一八日に鹿児島県の宇宙開発事業団種子島宇宙センターから打ち上げられ、静止気象衛星五号と無人宇宙実験室(SFU)を予定の軌道に乗せた。気象衛星五号は「ひまわり5号」と命名された。

現在赤道約三万六千キロの静止軌道上にあるSFUは日本で初めての回収・再利用できる衛星で、重さは約四トンある。赤外線望遠鏡での宇宙観測や、微小重力下でのイモリの産卵実験、世界初のプラズマエンジン噴射実験などを行なう。(3・19朝)

巣に出る「精神状態」

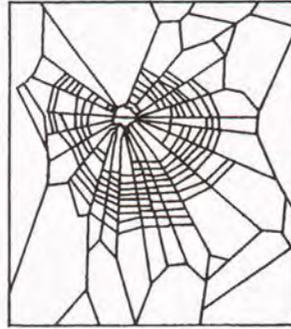
いろいろな薬物を与えたクモに巣をつくらせて違いを見分けることに、米航空宇宙局(NASA)マッシュアル宇宙飛行センターのグループが成功した。

て回収や分解が困難なフロンを、九五パーセント回収することにドイツ東南部のリサイクル技術専門会社が成功した。断熱材中でフロンは泡状のウレタンフォームの隙間に気体の形で入っている。まずフォームを密閉した容器の中で細かい粒に破碎する。次に特別な溶剤の中に通してフロンをできるだけきれいに洗い出す。そしてフロンを含んだ溶剤を導管に流し込みながら加熱する。この加熱操作を二度繰り返すと、溶剤の中からフロンだけが気化して分離することができるといふ。集めたフロンは冷却、加圧し、液状にして密閉容器中に保管する。

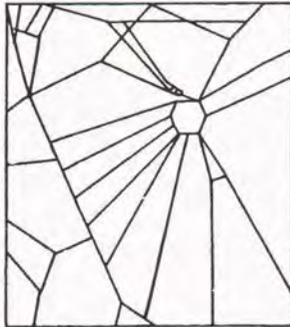
テストでは断熱材からは九五パーセントのフロンが回収できるが、四パーセントはフォーム中に残り、一パーセントは外気に漏れてしまうという。(4・24朝)



覚せい剤



マリファナ



抱水クロラルール

マリファナを与えたクモは、巣作りにおいて「どうでもいいや」と根気を失った様子で、中途半端な網の目になった。覚醒剤を与えたクモの場合は、計画性がなく、大きな穴があちこちに開いた。睡眠薬の成分になる抱水クロラルールを与えたクモの場合は、すぐにくとうととしたように、ほとんど網の目にならなかった。(5・8朝)

エジプト最大級の墓を発掘

ツタンカーメン王など古代エジプト王族の墓が多数あるエジプト南部ルクソール「王家の谷」で、約三二〇〇年前のラムセス二世の王子達のものと思われる墓

が発掘された。すでに六七室が発見されており、エジプト文化省は最大規模の墓としている。

この墓はラムセス二世の墓のすぐ近くにあり、入り口は一〇〇年以上前に確認されていたが通路がふさがれていた。宝物はほとんど発見されなかったが、壁画はかなり残っている。(5・17朝)

太陽に水があった

表面温度が約六〇〇〇度と推定されている太陽に水が存在している証拠を、米国立光学天文台の研究チームが突き止めた。謎の多い太陽の仕組みを知る上で貴重な発見になる。

同チームは赤外線分光計を使って観測し、比較的低温(摂氏三二七度)の黒点中心部に多量の水の分子が存在していることを示すデータを得た。

太陽には水素、ヘリウム、炭素、窒素などの元素が存在することが知られているが、高温のため原子核と電子がばらばらのプラズマ状態になっていると考えられている。水分子の存在も予想されていたが、確定的な証拠はつかめていなかった。(5・26朝)

全遺伝子を解明

米ジョンズホプキンス大学と米ゲノム研究所の研究グループが、肺炎などの原因となるインフルエンザ菌の全遺伝子を解明することに成功した。独立して生存できる生物体の全ての遺伝子の解読は世界で初めてで、医学の進歩に大きく貢献するという。

同グループは肺炎や子供の髄膜炎や中耳炎の原因となるインフルエンザ菌のDNA上に並ぶ一八三万二一対の塩基配列を一年がかりで解読した。(5・27朝)

世界最古の洞窟壁画

フランス文化省は昨年一二月に発見されたフランス南東部のアルデシュ渓谷の洞窟に描かれた壁画が、約三万年前に描かれた世界最古の壁画であることを発表した。約三〇〇〇点のサイや牛などの動物が描かれている。(6・4朝)

世界最高圧の海底直流送電

関西電力と電源開発、四国電力は世界最高電圧の五〇万ボルトの海底直流送電ケーブルを二〇〇〇年をめぐりに紀伊水道



に敷設する計画を進めている。

七九年に完成した北海道・本州間「北本連系」の長さ四三キロ、電圧二五万ボルトの海底ケーブルの二倍の電圧になり、世界最高の高圧送電線である。

ケーブルの直径は一八・八センチ、重さは一メートル当たり一〇〇キロある。家庭に届く電気は交流で電圧を自由に換えられるが、途中での電力損失が避けられない。直流送電にはこの種の損失がない。(6・2朝)

ひまわり5号の初仕事

五月一八日に打ち上げられた静止気象衛星「ひまわり5号」が撮影した初の画像が気象庁から公開された。

東経一六〇度の赤道上空静止軌道にある「ひまわり5号」が三〇分かけて撮影したもので、北日本を大荒れにした低気圧の雲の渦などを鮮明にとらえている。(4・21朝)



超能力者ダイナの驚異的パワー

★久保田八郎 (日本GAP会長)

現代ロシアに超能力者は沢山いるが、ここに紹介するダイナ・ナザレンコほど凄まじい能力を持つ人はロシアはおろか世界にもざらにいないだろう。

テレパシー、遠隔透視、未来予知、疾患部の発見その他、彼女の手にかかると、レントゲンカメラ以上の中として、はずれたことはない。

「こんな力がどこからくるのか、私にはわかりません。ただ何かの印象、つまり情報が心の中や頭の中から浮かび上がってくるだけなんです。宇宙の力が私を助けてくれるのでしょね」と

と彼女も事もなげに語る。
「誰かが私の家に来るのが事前にわかりますし、人が電話をかけてくるのも事前にわかります。その人が善人か悪人かもわかるし、健康か病気が、幸せなのか不幸なのかも会う前にわかります。」

私が飼っている犬達もそうなんです。以前に死んだ犬や、このガビという犬もそうです。この犬は人を見て鼻をくくんくさせて嗅いだあと、静かに去って行きます。見知らぬ人を見てから警告みたいなのを発して飛び出て行く

こともあります」

インタビュールに行った記者のエレナ・ペロストフスカヤが言う。

「私はふだん犬とは仲がいいんですけど、自分の事に関してはうまくいっていると思いたいですね。でも私の将来に関して予知をお願いしたいとは思いません。それはむしろ怖いことですからね」

「あなたは、いずれまたここへ来ますよ」とダイナが言う。

「ええ、もちろん来ます。雑誌掲載用に準備した原稿を見せに来ますよ」

「いいえ、そのことではなくて、別なことで、あなたはまたここへ来ます」

「怖がらせてはいけませんよ」
エレナは心配そうに言う。

ダイナの物凄い予知能力

これまでにダイナは失踪したある男を連れ戻したり、殺人者の隠れ場所を言い当てたり、人を悪者から逃れさせたりしている。どうやら遠隔透視能力者でもあるらしい。

彼女は一九九一年のゴルバチョフの

失脚を予言した。共産主義者の反乱が発生する正確な時期を言い当てているしかもこうした予言は絶対にはずれることがないと彼女は言う。

「予知されるのを怖がることはありません。誰も自分の人生において予知したいことがあるんですよ」

ダイナが予知できることは、全般的に何がやれるのか？

「そうね、人々が私の所へ相談に来たとき、相手が言い出す前に、あなたはこんな悩みがあるんでしょうと言つて当てるのが比較的やさしいわ。」

たとえば今会社を設立するのに良い時期か、それは成功するか、計画している旅行でどんな災難が待ち受けているか、といったことを人々は知りたがるんです。

人間はときどき旅行の準備をします、結局、良い結果が出ないことや、仕事が遅れることが私にも前もつてわかるんです。

また、大学の入試を受けて、合格するかどうかを聞きに来る人もあります。頻りに訪ねられるのは、痕跡を残さずに消えてしまった人を見つけてくれということです」

ここでダイナは多くの写真を見せる。「この失踪した女の子をこらんなさい。母親がこの写真を持ってきたのよ。私はこれを見て言ったんです。『この子は三、四日たつたら帰ってきますよ』」
そしたらほんとに帰って来たんです。

その子は浮かれ騒いでいただけなのよ」

別な写真を見せた。

「これは女の画家の写真で、旦那さんが持ってきたものです。私は言いました。『奥さんを探してもだめ。殺されているわよ』とね。」

私はときどき犯罪者を探すように頼まれるんです。九四年の一〇月に警察の人達が殺人事件でやってきて、犯人はどこにいるかと聞くんです。

「二月には見つかりますよ」と私は答えました。私には犯人達が逃げた場所がわかっていたものだから、結局そこで全員つかまりました。

ところで、この写真の女の子が失踪したんです。私は両親に話しました。

「この子の女友達にあたってみなさい」すると親が言うのです。「娘を誘った人や、つれて行ったレストランもわかっていきます」

両親は娘を発見しましたが、すでにその子は気違いになっていました」

宇宙と彼女を結びつける

径路

「地図を見ても謎が解けません。また、私は銀の指輪で謎を解くことができます。どうやらその指輪が私を引張るらしいんです。それから約五分間黙って座っています。そして指輪がふたたび私を引っ張ったとき、地図の中の問題の場所をジッと見つめる



◆ディナ・ナザレンコ

ことになります。

充分な結果が出ない場合はコーヒーを一杯飲むと、カップの底に地形が見えてきます。そして地形が崩れた瞬間に、映画の一場面のような光景が浮かび上がるんです。こんなときは人間の姿が見えたりしませんし、声も聞こえません。または光景が突然消えることもあります。

しかし夜になると、その光景が再度鮮明に見えてきます。たぶん私を宇宙と結びつける何かの径路が開くのでしよう」

ディナは人の病気を透視することもできる。だが今のところ治療を行わない。彼女自身の体がよくないのだ。他人から病気を引き取ってしまったので、自分の病気を治すことは難しいといい、自分が不健康なのに他人の治療をするのは罪だという。

他人の不幸を予告しない

彼女は自分の物凄い超能力を最初にごのようにして気づいたのか？

「三〇歳のときにその能力を漠然と感じました。今私は五七歳ですが、五歳のときに予言をし始めたんです。私に奇跡を起こす方法を教えてくれた人はいません。

あるとき仕事仲間と話をしていたら、相手の女性は立ち上がって出て行きました。そのとき一陣の熱風が吹くのを感じました。そこで思ったんです。明日彼女に何か良くないことが起こるだろうと。すると実際に彼女は卒中を起こして急に亡くなりました。

でも私がそれを期待していたことに気づいたとき、不快な感じがありました。その時以来、私のまわりの人々の人生に不幸なことを予知すると、いつも不快な感じがします。ですから私は明日誰かに何か良くない事が起こることを予知しても、必ずしもそれを話すわけではないんです。場合によっては話さないほうが最上なのです」

他人の想念を読み取らない

理由

他人の想念をテレパシーで読み取った場合、その悪影響から自分を守る方法があるのか。たとえば悪想念を受けて病気になることも考えられるからだ。

これにたいして彼女は言う。

「ええ、私は自分を守る方法を心得ています。だから他人の想念を読み取らないことにしているんです。でも長いあいだ会わなかった友達に会いたいのなと思ったら、その人がやってくるんです」

しかしディナはもう話したほうがよいと思う場合だけは、他人を待ち伏せしている未来のトラブルについて予告することになっている。

「少し以前のことです。私の心眼の中に雪の中に横たわっている人の姿が見えました。頭を撃ち抜かれているんです。その奥さんが心配して聞きにきました。『主人はどうしたのでしょうか』と。

私は話したくなかったんです。もつと待つてくれと引き延ばしていました。『何か悪い事があったんですね』と彼女のほうから言い出すのを待つていたんです。『悪い知らせを覚悟していました』と言いつたのを――。

ディナの最も幸せなとき

ディナにとって最も幸せであった出来事は？

「そりゃあ失踪しじょうした人が生きてるのがわかったときよ。そんなときはとても幸せです。あるとき一人の夫がいなくなりました。そこで奥さんが泣きの涙で相談に来たんです。しかし私の透

視によれば旦那さんはケンカをして出て行っただけなのよ。やがて帰ってくるからと話したら、奥さんは私に抱きついて、『ありがとうございました』と言うの。そこで私は話しました。

『もうケンカなんかするんじゃないよ』またこんな事もありました。長いあいだ妊娠しなかった女性がいたんです。悪い波動の影響を受けていたので、それを取り除いてあげてから言ったんです。

『二カ月待つてみなさい』

やがて坊やが生まれて、六カ月後にはものを言うのだそうです。『おかあちゃん、おとうちゃん』と。

『坊やはあなたに似ています。きつとあなたのエネルギーをもらい受けたのでしよう』と奥さんが言っていました」

ディナの奉仕の哲学

ディナ・ナザレンコは相談料を取らないのを原則としている。相手が自発的にテーブルにおいたお金をもらうだけである。しかしそのときでさえ彼女は内部の意識から来る声を聞く。お金を受け取ってよいかわるいかを告げる声を聞くのだ。また、相談に来た人が善人であろうと悪人であろうと、おかまいなしに彼女は人々を助ける。

『今日は悪人でも、明日は善人になるかもしれないからね』

異星人女性との出会い

●佐々木八郎

一九九五年四月三日(日)の午後三時頃のことです。場所は東京都内のある大きな書店の近くの喫茶店でした。

その店に入ってから、一人の女性の店員さんが目につきました。非常に明るいい人で、お客さんとの応対がハキハキしていて、快活な感じがしました。また動作がキビキビしていて、いつも笑顔で浮かべており、にこやかなタイプの人です。

その喫茶店に入ってから、書店で買った本を少し読んでみようと思い、コーヒートを注文したのです。そして私は本を読んでいました。

テレパシーで感知するのか

水が欲しいなと心の中で思いました。そうしたらその女性がすぐに水を持ってきて注いでくれました。しかも二回もです。他の店員さん達が近くにいたのに、遠くにいたその女性がすぐに来てくれたのです。

今度は灰皿を取り替えて欲しいなと思つたら、またその女性がすぐに来てくれて、灰皿を取り替えました。

紙のオシボリが入れてあったビニールの袋や、ミルクの空容器をかたづけたいなと思つたら、またすぐ来て

くれて、テーブルの上をかたづけられました。これで本が読みやすくなりました。親切な女性だなと思いました。素晴らしいオーラを放つ人

ここでその女性について少し詳しく述べてみます。

病院の看護婦さん用(だと思ふ)の白いサンダルと白の靴下をはいていました。他の店員さん達は黒い靴をはいているのです。

背の高さは一七〇センチメートル前後。ある名前のネームプレートが胸につけていました。髪は少しブロードがかつた黒です。瞳の色も黒です。顔の色はほとんど日本人と同じ色です。しかし少し白く輝いていました。二四〜五歳くらいに見えました。

私はその店に約一時間いました。そして代金を払うとき、その人の顔を思い浮かべて、テレパシーで呼んだら、店の奥にいたのに、すぐ来てくれました。

その女性のオーラはプラチナ色です。薄い黄金色もまじっていました。色が濃くて、背の高さの倍以上にオーラが延びており、しかも横にも下にもそのプラチナ色のオーラが広がっています。

ました。私が店に入って一番最初に気づいたのはその人の素晴らしいオーラです。

それから、しゃべり方に異星人特有の特徴があったことにも気づきました。想念を言語に変換して話すのは、地球人も異星人も同じです。しかし、異星人はそのことを意識して話しますが、地球人は日常そのことを意識していません。そこに異星人特有のしゃべり方が出てきます。

別な喫茶店にきた異星人

少しさかのぼりますが、一九九四年二月二日(水)。この日の夕方、都内江戸川区のN亭という所で忘年会がありました。気のあった友達と忘年会を開くのは楽しいことです。それが終わってから葛飾区K町の「コーヒー館」という喫茶店で二次会をしました。

八時ちよつと前から九時頃までその店にいて話をしました。二つのテーブルにそれぞれ四人ずつ座りました。私も席についていたテーブルの四人は、話が盛り上がり、UFOの話や異星人の話になってきました。

この太陽系の各惑星に人間が住んでいることや、その惑星の人達が、地球人にUFOと呼ばれている宇宙船に乗って地球に来ていることや、地球に住みついていて地球人をいろいろな方法で助けていることなどを私は話しました。同じテーブルについている人とは、

それまでにほとんどUFOや宇宙人の問題について話したことはありません。夏の日本GAPの海外旅行の時のことを、ちよつとだけ話したことがあるだけです。

具体的な話もしました。地球人が困っていることを彼ら異星人が知ったとき、それとなく助けてくれることがあること。一九九三年夏の日本GAPの旅行で私が病気になるたとき、テレパシーで彼らに助けを求めたら、特殊な光線で私の身体の調子を元どりにしてくれたこと。Y氏と一緒にフィラメントの入っている四角な橙色に発光するUFOを見たことなどを話しました。その他、哲学的な話などいろいろと話しました。

私が夢中になって話をしていたとき、ふと人の視線に気がきました。それは左側からのものでした。左を見ると、二人づれの男性の客がいて、こちらを一人の人が見ていました。店に入って一時間程たった頃のことです。そのちよつと前にその人達は店に入ってきたようです。

もしかしたら私は思つて、ある方法で確かめたら、やはり異星人でした。一人は確かめられましたが、もう一人は確かめられませんでした。地球人だったかもしれません。でも一人は確実に異星人であることがわかりました。それからまた私はみんななどの話にもどりました。確かめていた時間は十数

秒ぐらいです。またもう一度あとで確かめようと、そのとき思いました。

みんなと話しているときも、私は気になって、何回かその異星人の座っている席を見ました。そのたびに相手はこちらのテーブルの方を見ていました。こちらの話に関心があつて、話を聞いていることがわかりました。その二人づれと、こちらの席とは七、八メートルぐらいの距離がありました。

テーブルに一緒にいた三人は、席を立つとき、

「おもしろかった。楽しかった」

「また、話をお聞きしたい」

と言っていました。

私達が店を出ようとして、その二人づれよりも先に席を立ちました。そのときまた私の方を見ました。その異星人はメガネをかけていました。私の方を向いたので、想念を送ると、やはり異星人でした。

すると相手はすぐにメガネをとって茶色っぽいジャンパーの内ポケットにしまいました。また、私の方に向きなおってジロジロと（この表現がぴったりする）私を見ていました。

その人は日本人の中年男性のように見える人でした。服装も特に目立つところはありません。四〇歳を少し出たところでしょうか。私をもっとよく見ようとして、その人はメガネをとったと思います。

おなじテーブルで話をしていた三人

の内、二人に、

「あの人（異星人）をよく見ていて」

と席を立ったときに、相手を指さして私は言いました。ビックリした顔でも何も言わないで、その二人はその異星人をよく見ていました。私があることを言ったとき、私も少し興奮していたものですから、二人ともうすうす分かったと思います。

「この人が異星人なの？」

という顔で、その異星人を見ていました。店を出てからそのことを二人に伝えました。

まず宇宙の法則の実践を

UFOやアダムスキー問題、宇宙哲学を人に話して、宇宙の法則を実践することを人に話すと、異星人は近づいてくるのです。テレパシーで感知して来るのだと思います。明らかに私達の話に関心があるようなそぶりでした。

地球人にもいろいろな人がいるように、スペースビートルにもいろいろな人がいると思われれます。今まで数多くの異星人に気づいてきましたが、大事なことは、異星人に気づくことよりも宇宙の法則を実践することだと思えます。彼らもそうしているはずだからです。異星人かどうかは個人で判断するべきことと思います。これは個人の宿命にかかわってくるのだと思われれるからです。異星人よりもまず万人の内部の宇宙の意識に気づくことです。

I Often See Space People

by Yoshiko Harasochi

異星人をみかける私

●原垣内良子

私はまだまだ向上が足りないと思われる人間ですが、久保田先生の「意識の声」に書かれておられる内容と同じく、なぜか最近UFOをししばしば見ております。

私はプライベートな事柄をお知らせすることはあまり好きではありません。しかしここでお話をしなければ私の小さな使命が果たされないのではないかと思うようになりました。

最近のことです。ユークン誌の書店卸をしたいと思い、お願いをして同誌が届いたときのことです。用事があつてバスに乗って中心街に行くとき、外人の方が数人乗られたり、一人で乗られたりするの、どうも私を意識している様子があるのです。

あるとき広島バスセンターからバスに乗りました。いつも真ん中の席に座るのですが、その時は席が空いていなくて、いちばん後ろに座りました。あとからバスに乗り込んだ男性の方が一人います。その方はバスの中全体を誰かを探しているふうに見直し、後ろにいる私と目が合いました。私はべつに何とも思いませんでした。

そのあと前の方の席が空いたので、降りるのに便利なようにと、私は前の

方の右側の席に移動しました。例の男性は私の左斜め後ろの席に座って、雑誌を読んでおられました。私はなんとなく気になって左を振り向いて見たのです。肌はハツとするようなきれいな色で日本人ふうです。私は好感をもつて「まあ、素敵な男性だなあ」と心で思っていました。すると相手は私の心を感じられたらしく、こちらを見ましたので、私は顔が赤くなつてしまいました。

その他、やはりバスの中で異星人と思われる人からテレパシーで話しかけられたことがあります。その声が私の頭の中ではつきりと響くのです。そうしたら、その日の数時間後にUFOを目撃しました。別な日には夕方、小学校六年生の次女がUFOを見ています。星のような光る物がジグザグに飛んで行ったということでした。

私の他にも広島市在住のGAP会員の方で、異星人に出会ったという女性がいっぱいいます。私達がGAP活動を熱心に行なうのをスペースビートルはかげながら支援して下さっているのだと確信しております。今後も頑張りますので、よろしくご指導のほどをお願い致します。

透視・臨死体験・ 不思議な女性

My Mysterious Experiences and
the Philosophy of Adamski

by Fukuzo Chiba

私の不思議な体験と宇宙哲学の実践法

●千葉福造

腕の振動と透視現象

あるとき真夜中に突然の腕の異常にびつくりして目が覚めました。右の腕がビリビリビリと、まるで電気が流れているように振動しているのです。上下にゆさぶられていくように感じます。何事が起こったのかと頭の中はパニック状態になりました。止めようとしても振動が止まらないのです。そのうち左腕も同じように振動が始まりました。すると自分の意思とは別に、目の前（まぶたの裏側）に映像が現われました。カラーの映像で全てがハッキリと見えます。高い山の尾根が視野全体に広がり、鋭角の岩がゴロゴロしている山頂に二人の男が見えます。二人とも腰をおろして何か話をしています。二人とも上下が白色の服を着ています。それがとても印象的です。それを三〜四メートル上空から私が眺めているのです。まわりの高い山々の緑も見えます。そして腕の振動がおさまると同時に映像も消えました。こんな振動は初めての体験です。今はときどきそれが起こります。

ときどき映像が見える

ある夜、家族でコタツに入ってテレビを見ていました。私は昼間の疲れのせいで横になってウトウトしてしま

た。するとまた突然、腕にビリビリビリと電気が流れるような振動が始まり、腕が上下にゆさぶられる感じがして、また映像が現われました。しかし家族の誰一人としてこの異常に気づきません。これはすべて私の内部で起こっている事なので、まわりの者は気がつかないのです。

私は映像を見るのがとても楽しみです。これは決して夢ではありません。まぶたの裏側でハッキリ見ることができ

ます。ただし自分の意思とは関係なく見えてきます。見ようと意気込むと絶対に見ることはできません。精神統一もダメです。とにかく、そのことに興味を持つとよいのです。そして興味を持続させることです。

映像には二つのパターンがある

私の場合、透視を起こすには仰向けに寝てただ待ちます。座ったり立ったりするのはダメです。無理に見ようとするのはすぐ疲れるので、今は自然の状態にまかせています。その透視映像を私の肉体を構成している膨大な数の原子一つ一つからの情報（贈り物）だと思つて感謝しています。ですから一つとして同じ映像はないのです。

私達の肉体は膨大な資料を詰め込んだ巨大な図書館であり、宝の山だと思つています。すべてが完璧です。

私の場合、今のところ映像パターンが二通りあります。振動によって見る映像と、昔の白黒写真のような映像です。前者はカラーで、後者は白黒（セピア調）です。セピアの場合は映像の内容が昔の光景のように感じます。

たとえば、外国の古いお城とか、土間のカマドの所に立って、こちらを見て微笑んでいる一四〜一五歳ぐらいの少女とか、出征兵士のような人々の見送り風景とか、画面がプレーバックしたりズームしたりします。高速でズームすると画面が摩擦の熱でブクブクと泡状になります。まるで8ミリフィルムを回しているような感じですが、これらもすべて自分の意思とは無関係です。面白い映像では、コートを着た白人女性が小荷物をかかえて立っているのですが、やがて歩き始めます。その女性の後ろ姿を見送っていると、突然、女性の全身が透けて骨が見えるんです。背骨や骨盤までが白くハッキリと見えました。

常にアダムスキー哲学を 読む

私はひまがあれば必ず「生命の科学」「超能力開発法」「宇宙哲学」の三冊だけは読みます（以上は新アダムスキー全集第三、二、七巻）。自分の頭ではわかったつもりでも、実はあまり理解していないことに気づきました。しかし毎日少しずつ読んで年月を重ね

ねてきますと、じよじよに体が理解してくるのがわかります。これからもっと長い年月が必要だと思います。頭だけでわかるのではなくて、身体全体が理解してきたことに気づくまでやるのです。けっして焦らないつもりです。

宇宙哲学を全身で理解し実践する

私の身体が理解してくると細胞達が自然に反応するようになってきました。上半身の熱感、次に細胞のざわざわした感じ、そして腕の振動へと進んできました。両腕に振動が起こっているとき、腕の細胞全体が何かに欣喜しているように感じます。まるで腕だけが別の生き物であるかのように感じるのです(初めの頃は少し恐かった)。それがいずれは全身へと広がってゆくのかもしれません。

『宇宙哲学』の第二章「弛緩」の中に、原子の高振動化という文章がありますが、このことも一理あるのではないのでしょうか。私はアダムスキー哲学を身体全体で考え、覚えようと実践しているのです、私の想念波動に原子達が反応しているのではないかと思いません。

もしかりに病気で苦しんでいる人がいて、その人の全身にこの振動を起こすことができたとしたら、すべての病気が一瞬にして消滅してしまうのではないかと思うのです。ぜひ大勢の人達

がこのアダムスキー哲学を学んで身体全体で理解し実践して頂きたいと思えます。

将棋の盤面を透視する

私は将棋が趣味でよく指しますが、ある夜フトンに入って目を閉じた瞬間、目の前に将棋盤があり、盤上に駒が並んでいる光景が見えるのです。そして先手後手と駒が勝手に動きだすんです。それは中盤戦の仕掛けのところですか。ハッキリとカラーで見えるので、しばらく眺めていました。

これは明らかに私の脳の記憶ではなく、肉体細胞の記憶、または外部からの情報を細胞がどこからか仕入れてきたのか、そのいずれかであって、脳でないことは確かです。なぜならそのとき将棋のことなどは全然頭になかったからです。

今プロ棋士のあいだではパソコンに資料を入れて、いつでも必要なときに資料(棋譜)を引き出して研究しているようですが、人間の肉体細胞もこれと同じように行なうことはすべて可能だと思います。

私が現在将棋を指すときには身体全体で思考するように心がけています。そして楽しい気分で見ます。脳には情報を整理させるだけで、よいいなことは考えないようにしています。

その結果、香車一枚分、棋力がアツ

くしました。歴代の名人達は必ず身体全体の細胞(原子群)を無意識のうち他の棋士以上に使って、相手の想念を読み取っているのだと思います。

肉体の原子群を最高レベルに

人間の肉体細胞(原子群)は素晴らしく高感度の良いアンテナであり、記憶装置であり、発信装置も兼ね備えており、そして脳はその多大な情報を引き出したり翻訳したりするのであります。人体を構成している原子群をどこまで最高レベルにまでもっていかけるかによって(おそらく無限だと思う)、それと比例して頭脳も発達していくのだと思います。地球人の頭脳が全体の五パーセントしか使っていないとすれば、肉体の原子たちも五パーセント分しか働かないのではないのでしょうか。頭脳と身体とは相関関係にあるのでしようが、でも身体の方が結構重要な役割を持っているのかもしれない。

もっと肉体細胞を信じよう

創造主によって生み出され、与えられた肉体(原子群)を地球の次元での最高レベルにまでもってゆくことは、人間に与えられた義務であると思います。スペースビープルの方々も、それに答えようと、肉体である原子達を最高のレベルまでにまで進化させようと

努力しているのではないのでしょうか。

地球人は肉体は単なる物質で、頭脳こそがすべてであると長い間信じ込んでいるために進歩向上ができないようです。もっと肉体細胞(原子群)を信じて、最高レベルにまで向上させるのです。そして長年の古い習慣的想念を捨て去ることによって、細胞がみるみるよみがえる(若返る)のです。

原子たちには病氣も終わりもありません。スペースビープルの方々は自己の肉体(原子たち)を自在にコントロールできるまで進化しているのでしよう。

それでもまだまだ進化の途上だと思えます。進化は無限です。私達もスペースビープルの方々に一歩でも近づけるように、日々学ぶことが重要だと思います。

臨死体験とは何か

私は長年、人間の死について非常に興味がありました。そして最近、特に感じた死についてのレポートをまとめました。

先日ラジオで臨死体験をした人の話を聞きました。その人は霊界を見てきたと言います。それは私の映像透視体験と少しも変わらないと思いました。それから何人かの親しい人の死にも直面しました。

死体を見ていて感じたことがあります

す。ソウルマインド（人体を生かしている宇宙の意識）は、すでに転生をしたけれど（別な新生児の体内に移転したけれども）センスマインド（肉体に付随する心）は依然として肉体内部で活動（映像）が続いているのではないかと感じました。人間の死で各機能がすべて停止するとマインドは完全に二つに分かれるのではないのでしょうか。特に発達の遅れている地球人の場合はそのような思われます。ソウルマインドとセンスマインドの二つに分かれると思うのです。

ソウルマインドは現世のわずかな記憶とともに、みずからの波動によって他の同じレベルの波動に引かれて新しい肉体をめざします（その波動の中にこそ、その人の生涯においてのカルマが刻み込まれているのです）。

ところがセンスマインドはそのまゝ肉体内に留まります。それは肉体である各感覚器官で作られた心であるからです。そして肉体が冷たくなっても細胞が消滅（分解）しないかぎり、内部での活動（映像）は続きます。これが世間で言うところの「霊界」の光景なのではないでしょうか。そして本人もこれが肉体内部で起こっていることに気づかないのです。

結局、「霊の世界」なるものはすべて自己の肉体内部に存在するのです。そして肉体を作り上げている細胞が分解されて元の原子にもどるまで、その

「世界」は続くのだと思います。

昔は土葬のため、肉体が朽ち果てるまで数十日間かかりました。世間の初七日とか四九日とかはこのことに関連があるのかもしれませんが。今は火葬のため、非常に短くなり、細胞の分解とともに原子の記憶の中に深くしまい込まれてしまうのだと思います。

ソウルマインドが新しい肉体に転生しても、その人に前世の記憶が残らないのは、ソウルマインドに記憶させることを前世で怠ったためだと思えます。そして大部分の記憶は肉体に残して生きたためです。だけどときどき以前に自己の肉体を形成していた原子から、少し記憶が洩らされることもあるのでしょう。

幽体離脱現象も肉体内の出来事

人の死後は肉体内ではその人の心の次元に応じた「因なる世界」が待っていると思えます。そしてその人の心に各細胞たちは素直に反応するのだと思えます。すべては肉体内部で起こっていることです。

私が数回経験した、世間で言う幽体離脱現象も、肉体内部で起こっていることに気づきました。私が以前に幽体離脱をして自宅の玄関前に立ったとき、庭の犬がこちらを見て尾を振っていたことがありますが、これもすべて私の内部（前額部も含む）で映像が浮かび、

肉体はそれを感じ取っているだけのことなのです。

これは私の内部と犬の内部で同時に細胞が感じた現象だと思えます。私の意識は玄関にありまして、そして肉体内部で玄関の映像を見えています。そして犬の内部も同時に私の内部の映像と同調します。そしてその映像の接点は玄関にあるのです。これは肉体から肉体へ、細胞から細胞へ、原子から原子への旅行です。よくUFOが右から左へ、左から右へと光体が移動する場合がありますが、まさにあの現象と同じだと思えます。

内部の原子群が呼応する

たとえば、スプーン曲げも同じだと思えます。あれもスプーンの内部現象で起こるのです。スプーンを形成している原子たちは自分が人の手に触れられて食事のときに使われるものだという記憶を持っているのです。スプーンの製造時やまわりの人々からの情報を常に与えられているので、最もなじみやすいのです。そして素直な心を持っている人の「曲がれ」と思う気持ちにスプーンを形成している原子たちが素直に従うのだと思えます。特別な力が外で働くのではなくて内部で起こっていることなのです。物から物への伝達には超微粒子的波動の媒体はあるにしても、すべて内部の反応だと思えます。

不思議な女性に会う

昨年（九四年）八月七日（日）の東京月例セミナー終了時に、私は一番先に会場を出ました。機械振興会館の地下の出口から右手の方に正面玄関に上る石段があります。

そこを上がって行くと石段から見て一番奥の花壇に腰をかけている美しい女性が目にとまりました。そのときの第一印象は「美しい女性がいるなあ」というものでした。しかしなぜこんな所に、この時間に、こんな美人がいるのだろうと考えるながら歩いていました。今思っても不思議なのは、石段のその位置からだど柱の陰なので、一番奥の花壇までほとんど見えませんが、その女性がすぐに見えたことです。

私が正面玄関を通って大通りの歩道に向かつて歩いて行くと、一番奥に腰かけていたその女性が立ち上がって、親しそうにこちらに向かつて歩いて来ます。私はアレツと思いましたが、同じ花壇の歩道側に二〇歳ぐらいの男性が腰をおろしていたので、その男性の知り合いかなと思ったのですが、その男性はごく普通の人なんですけど、

ちよつとその女性とは不釣り合いになるので、これは違うと感じました。あまりにその女性が素晴らしかったからです（その男性には申し訳なく思いません）。

遠くからその女性を見たとき、鼻の脇に丸い大きな黒いホクロがあるように見えたのですが、実際にはありませんでした。そしてその女性は私と合流すると私のすぐ後ろを歩き始めました。私としては「なんだ、なんだ」という感じですが。その歩道には誰も歩いていなかったもので、よけいに奇妙に感じたのです。

そのとき何か変だなと感じて、次の角の所でもう一度顔や姿を見てやろうと歩調を早めて、自動販売機のある角を曲がって東京タワーを見るふりをし、その女性を待ちました。

振り返ると同時にその女性が角を曲がってきました。距離は二メートルで、さらに一メートルと近づいてきました。私はその女性を露骨に凝視しました。私は昔から人の表情の意味を察知するのがうまいと思っていますので、その女性のわずかな表情の変化をも見逃さないようにと見つめていました。

その女性の表情はまさに完璧でした。私とは視線を合わさず、毅然とした態度を示し、見つめられているという動揺が表情にまったくありません。普通の地球人女性ならば、あのようなときには絶対に視線を合わさずです。合

わさなにいしても瞼をパチパチさせるとか、眼球を少し動かすとか、何か必ず弱点が見つかるはずなのに、それがまったくなくて、まさに完璧なのです。でも知性的なその美しい瞳の中に温かさが感じられました。

そしてその女性が私の目の前を通って立ち止まるまで、私の視線はその女性を追っていました。女性は向こうを向いた状態で立ち止まり、しばらくして横に向き直りました。私はその横顔を横目で感じながら、一緒に並んで立っていました。

年齢は二〇〜二三歳ぐらいで、身長は一六五〜一七八センチぐらい。薄手のジャケットにリュックを背負い、ジーンズをはいていました。アウトドア用のヒモのついたシューズをはいていますが、そのバランスがとつても素敵なのです。このとき「私よりも大人だな」という印象を受けました。私は我を忘れてその場に立ちすくんでいました。そして二人が立って並んでいる場所の空間がすごく狭く感じられたのです。

そこには別に信号もないし、車も通っていないはずなのに、その女性は私に合わせて横に立っているのです。なんで私が立ちすくんでいたのか分かりません。一五〜二〇秒ぐらいだったかもしれません。

まもなく、うながすかのように女性の方が先に歩き始めました。私も女性



▲上の写真は千葉氏が月例セミナー終了後、機械振興会館の表玄関横の石段を登って立った光景。この位置からは柱等が邪魔して、ずっと奥の植え込みの所に座っていた女性の姿は見えないはずなのに、なぜかそれが見えた。下の写真は不思議な女性が座っていた位置に腰を下ろしている千葉氏。

の後ろについて歩き始め、その素敵なシューズに目がいつて、目の前に拡大したようにそのシューズを見つめていました。

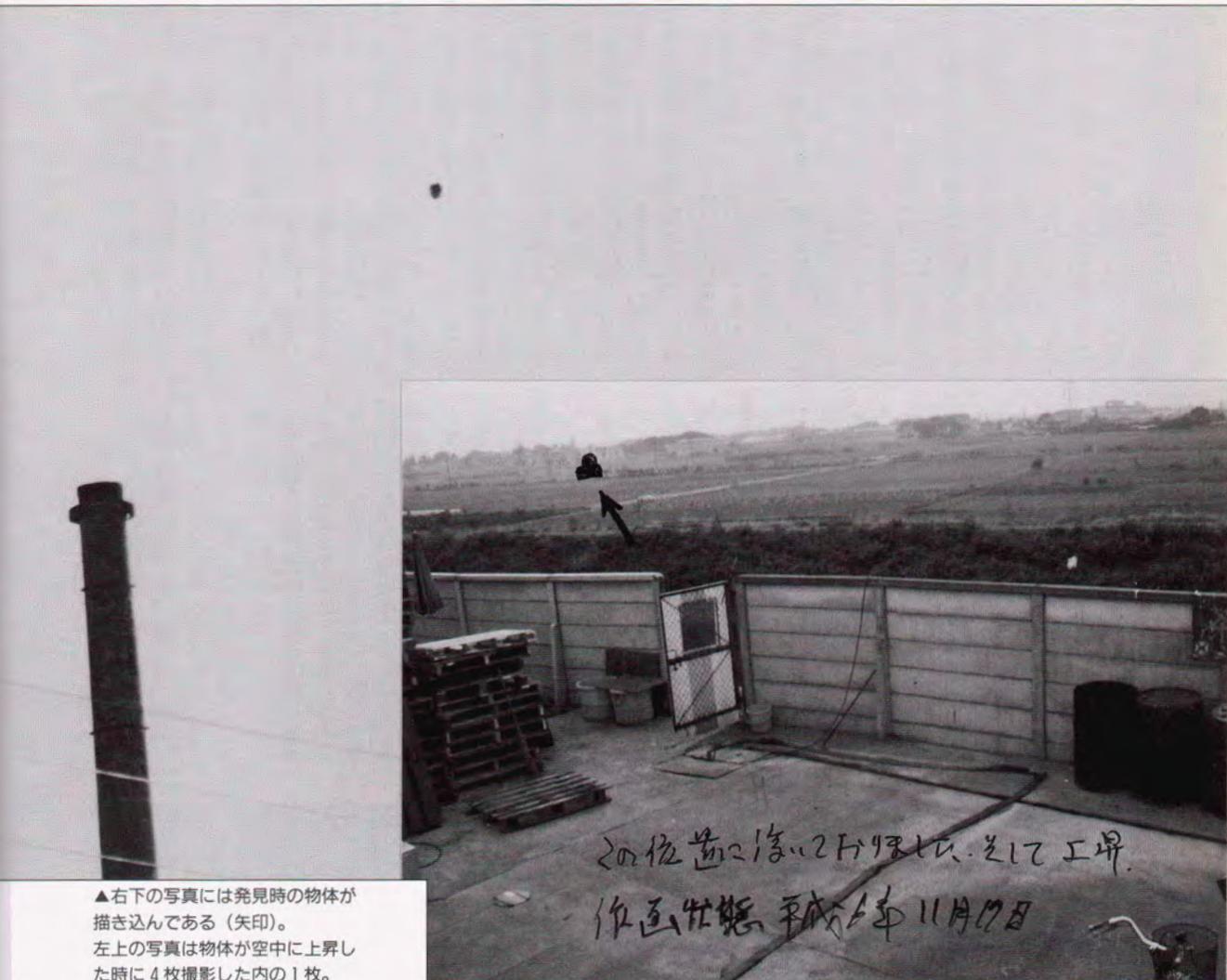
すると急に女性が立ち止まり、きびすを返してまた私の後ろに回ったのです。それからもう頭の中は真っ白で、背中に視線を感じたまま、ただただ夢中で歩きました。

飯倉の交差点を曲がるまでは誰もいなかったような気がしましたが、他の人が目に入らなかつたのかもしれない。

神谷町の地下鉄に向かつて行く途中

に鏡張りのビルがあります。その辺りでは数人の人が歩いていまして、そのビルの鏡に映った自分の姿の後方一〇メートルぐらいの所にその女性の姿が映っていました。まだ居るのだなと思

神谷町の地下鉄の入口の所まで行って後方を振り返りましたら、その女性の姿はありませんでした。その女性は宇宙船がとてよく似合う人だったと思います。そしてちょうどこの日は日本GAP東京月例セミナーの三〇〇回目の記念すべき日だったので。



▲右下の写真には発見時の物体が描き込んである（矢印）。

左上の写真は物体が空中に上昇した時に4枚撮影した内の1枚。

この位置に浮いておりまして、そして工場。
作画状態平成6年11月17日

●UFO、狭山市に出現

平成6年11月17日午後12時32分、我々4人は狭山市の会社裏手にある川で釣りをしておりました。河面の浮きを見ていたので、目の疲れをなおすために遠景を見るべく田んぼに目をやった時、この見なれない物体を見たのです。「何だ、あれは」の声で4人は立ち上がり、物体を見ていましたが、その時は宙に浮いていました。光は放っていませんでした。私は急いで電気室に戻り、カメラを手にして再度その場所に行きました。その時「上だ、上だ」の声でカメラをおけましたが、どうしてもシャッターが切れません。あわてていて電源をいれていなかったのかもしれない。確認している時、物体は移動を始めたのでシャッターを4回切りましたが、残念なことに105ミリズームでしたので、大きくは撮れませんでした。しかしこの写真でもルーペで拡大してみると、物体が光を発しているのが私には解りますが、いかがでしょうか。

本当にびっくりした出来事でした。それ以来210ミリをカメラにつけています。世の中の不思議というより、不思議な物体が存在することをカメラに収めたいと思っております。それにしても、あの物体が音も煙も出さずにあの速度で飛べるのは、地球上で作られたものではないと私には思われます。 埼玉県狭山市 小田育男

不思議な空中現象

★クライド・W・トンボー 久保田八郎訳

一九四九年八月のある夜十一時頃、ニューメキシコ州ラスクルーセスのわが家の裏庭から、私はその物体を見た。

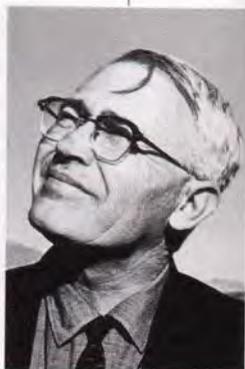
ちょうどそのとき私はたまたま天頂を見ており、星々の輝く美しい透明な空に感嘆していた。そのとき突然「ラポックの光体群」に似たかすかな青緑色の長方形をなした物が幾何学的な群れをなしているのを見つけたのである。

裏庭で私と一緒に座っていた家内とその母親もそれを見た。

光体群は南南東の方へ移動しており、各長方形の物はしだいに小さくなって編隊の空間も狭まってゆき（最初は約一度の間隔があった）、輝度も鈍くなり、地平線上約三五度のあたりで視界から消えた。目撃時間は約三秒であった。

私は大変驚いたので、その長方形の光体の数をかぞえることはできなかったし、その他の特徴に気づくこともできなかった。後になって首をひねるだけである。音響もなかった。

私はこれまでに数千時間、夜空の観測を行ってきたが、こんな不思議な光景を見たことはない。その長方形の光体群の輝きにはぶかったので、空に



満月が出ていたら、見えなかったと思う。一九五七年九月一日

（資料提供/佐々木八郎）

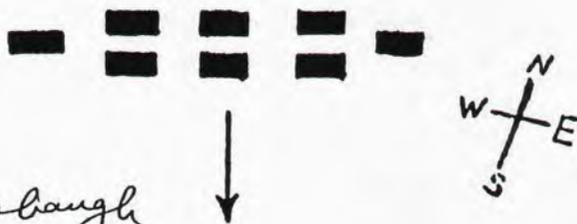
訳注

〈トンボー博士〉 太陽系第九番惑星を発見したアメリカの大天文学者。ローウェル天文台のローウェル、ピカリング、ガイヨールらが天王星の運動の乱れから未知惑星の存在を予測していたが、同天文台で観測を続けていたトンボー博士は、それらの研究を基にして一九三〇年一月、ついに写真によって冥王星を発見した。

なお博士のUFO目撃に関して当時訳者の知人であった京都のUFO研究者M氏が昭和三〇年代に博士宛質問状を出した。M氏は折り返し博士から送られた返事を訳者に見せてくれたが、非常に懇切丁寧な書面であり、光体の図まで描いてあった。日本の見知らぬ青年に丁寧な返書を出す博士の奥ゆかしさに感銘を深めたのを覚えている。

〈ラポックの光体群〉 一九五一年八月三十一日夜九時二〇分頃、米テキサス州ラポック市の上空を一五ないし二〇個の黄白色の光体が飛ぶのを多数の住民が見た。自宅にいた一八歳のカール・

R・ハート少年も目撃し、庭へ飛び出て写真を撮影した。目撃者のなかにはテキサス工科大学の教授三人もいたが、彼らはこれを鳥の群れと考えた。しかし空軍は鳥説を否定した。いまだに謎の物体としてUFO史に残っている。



Clyde Tombaugh
Sept. 10, 1957

図はトンボー博士による。



◀ラポックの謎の光体群

白山の UFO

左頁の写真は、一九八二年（昭和五十七年）一月に、秋田県湯沢市内Y農協

の広報の表紙を飾った写真。当時、筆者は市内の某印刷所で写真・デザイン等の仕事に携わっていた。広報紙などの場合、写真現像・焼き付け（モノクローム）等を担当していたが、当時この写真を焼き付けしたとき、この広報担当者指定のフィルムのコマと、その前のコマに黒い物体が映っているのを見つけた。その連続2コマをトリミングのうえ焼き増しし、筆者がこれまで保管していたものだ。撮影された対象は、湯沢市松岡の白山（はくさん＝標高二八九メートル）で、写真の頂上部分には地元の信仰を集めている白山神社がある。

筆者は新聞や雑誌、その他目に止まったものは、ジャンルを問わずとりあえずスクラップして保管しておくという癖があり、印画紙を入れる黒いビニール袋やファイル等で保存している。本誌第一二六号・UFO目撃体験の、

久保田先生の記事及び写真を拝見したとき、類似した写真を保管していることに気付き、早速照らし合わせてみたら、大きさこそ違えほとんど同じ形に写っている。これまで一〇年以上、全く取り出して見ることはなかったが、奇しくもその一〇年前にあたる一九七二年に久保田先生が三浦半島で撮影された写真を、筆者が一二六号で拝見したことにより、多くのスクラップや写真の中からこの写真が日の目を見ることになった訳だ。

しかし筆者がこの写真をすぐ本誌に提出する訳にはゆかなかった。まずこれが筆者が撮影したものではないという点。それに本誌一二六号を拝見した時点で、この写真の撮影者が筆者には定かではなかったこと。さらに公的な印刷物に掲載された写真であること、筆者が記憶していること。以上の理由から、関係諸氏の承諾を得なければならなかったからだ。

話は前後するが、当時筆者は二紙の広報の写真を担当していた。一つは湯沢市の隣の羽後町、もう一つは市内のY農協だった。筆者は本誌一二六号を拝見して以後、折を見て出向いた羽後町役場、Y農協双方のご好意により一〇数年前からの広報紙（羽後町の場合ネガも）をチェックさせて頂いたが、その結果この写真がY農協発行の広報紙の、一九八二年一月二〇日号表紙に使用されていることを確認することが

でき、そのコピーをY農協より戴いた。当時Y農協の広報を担当しておられたM氏が撮影したものであることも解り、ご本人からお話を伺うこともできた。同時に、本誌がUFOを興味本意ではなく科学的・哲学的に研究しているもので、筆者も講読していることを説明したうえ、写真の本誌掲載を快く承諾して頂くこともできた。ご多忙中ご協力頂いたM氏を始め、関係諸氏にお礼を申し上げたい。

写真の物体は、ふつうなら印刷所の製版部門にてフィルムのごミと判断されてしかるべきものだが、これがこのままの状態で印刷されたことに、今回のチェックで初めて気付いた。

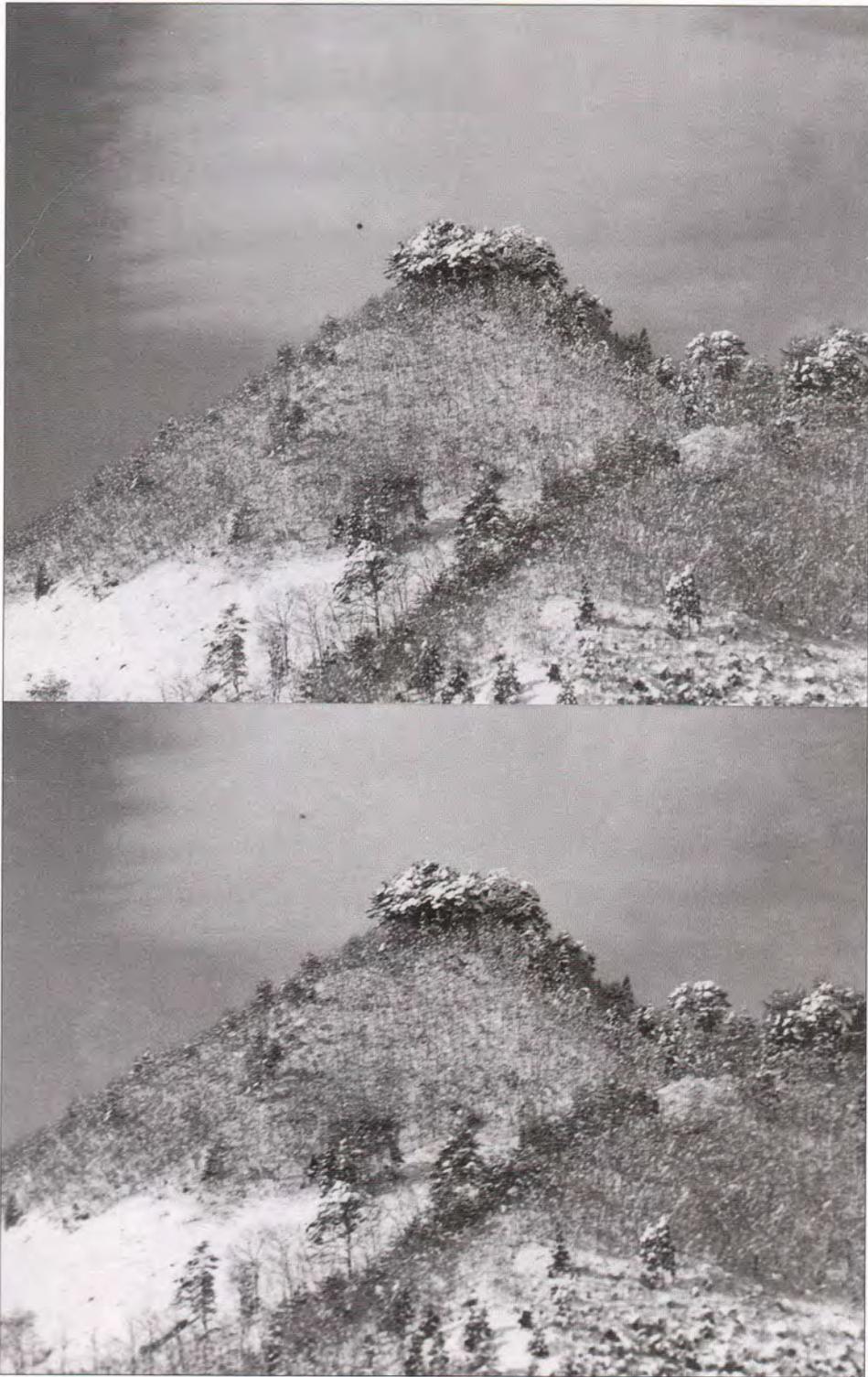
筆者の当時の定着不良ならびに経年変化により、写真に多少の黄ばみが見られるため、ネガを拝借して新たに焼き付けしたかったのだが、当時のネガは検索困難とのことで諦めざるを得なかった。しかし、この写真でも物体と思われるものの姿は鮮明で、資料として申し分ないものと思われる。

写真は、前後二コマから判断すると、移動して停止した物体の連続実写にも見える。また、印画紙を光源に透かしルーペで見ると、円形の内部に等辺三角形にある黒い部分が確認できることから、実写体の可能性もあり、久保田先生が撮影されたものとは原理的に違うのかも知れない。こうして見ると彼らは、将来の複雑

な我々の脈絡をも関知し、我々にはまだ理解できない色々な方法も使いながら、彼らの存在を平等に周知させようとしているようにも思える。それに気付くのがごく一部の人間達であるという点に、何か運命的な面も感じられるはずだが、加えて多くの人間がそれと気付かずに関わっているという事実も、決して無視できないのではないだろうか。

蛇足となるが、懐疑論者達の恰好の餌食となつておられるのがテレビのあるUFO番組だ。仮定論を積み上げて、最後に結論に結び付けるやり方を見ていて不愉快だ。さらにその過程のことだが、地上と上空の風向きの違い（場所にもよるが）は小学生でも知っている事実で、これを上空の物体が気球ではないことの証拠に使ったりしている。また、一般ビデオカメラのポケ映像に、さらに放送局で電氣的拡大処理を施し、それをUFOの形と断定するなど、素人でも解りそうなことを堂々と流している。実際に貴重な映像もあることは事実で、ビデオに残してはいるが、放送時間が週末のゴールデンタイムという条件もあって、一般への影響は大きいはず。

番組の真意が別のところにあるのは解っているつもりだが、至っては本誌の記事や写真も、懐疑論者の拡大解釈から否定の対象になりかねないと危惧しているのは、筆者だけだろうか。



◀ 上は最初に撮った写真。下は続いて撮った一枚目。物体が移動している。

父と従兄が “UFO”目撃

高橋克彦

「鮮い記憶」で直木賞、「写楽殺人事件」で江戸川乱歩賞、「北斎殺人事件」で日本推理作家協会賞と、かすかずの受賞で名高い作家の高橋克彦氏が毎日新聞（今年六月四日付）にきわめて興味深い記事を寄稿された。以下は同氏と毎日新聞社の許諾によって転載した全文。この内容に類似したUFO目撃事件をこれまでにたびたび本紙に掲載してきたが、今回は有名な推理作家・高橋氏が身近な方々の体験を克明に聞き取った記録なので迫力に満ちて

いる。なお同氏は編者（久保田）のUFO関係著書にも目を通しておられたという。

「信じられぬええものを見たぞ！」

玄関のドアを乱暴に開けて従兄が飛び込んできたのは夜中の十二時過ぎだった。今から二十年近くも昔の話だ。場所は秋田県の鹿角市の私の実家。その当時、私は早稲田大学に在学中で、長い休みのたびごとにそこへ戻っていた。興奮している従兄の声に驚いて玄関に走ると、従兄の後ろから姿を見せた私の父親の顔も心なしか青ざめていた。二人は昼から盛岡に車で出掛けたいたのである。

「UFOだよ。UFO」

従兄はそれを繰り返しながら居間に入るとテレビのチャンネルをがちゃがちゃ切り替えた。なにかニュースで報道されていないか確かめたのだ。私は尋常でない従兄と父親の様子に薄気味悪さを覚えつつ、なにがあつたのか問い質した。従兄は私の母親が運んできたビールを一気に呑み干すと人心地がついたらしく、ようやく筋道を追って話しはじめた。

従兄は私の父親を乗せて盛岡から鹿角へと暗い山道を飛ばしていた。まだ高速道路が完成する前のことで、どんなに急いでも二時間はかかる。盛岡の

用事が意外に手間取つたので帰りが遅くなつたのだ。それでも田山の峠に差し掛かるとホッとした。この峠を越せば鹿角まで三、四十分とからない。安心したら急に尿意を催した。早く帰りたい一心で我慢をしてみたのだと言う。従兄は峠の頂上で車を停めた。こんな時間に擦れ違ふような車は滅多にいない。従兄と父親は車から下りると月明かりに照らされた下界をのんびり眺めながらゆっくりと放尿しはじめた。まことに見事な満月が二人の正面に輝いていた。金色の光が幻想に誘う。二人はその月を見上げつつ解放感に浸っていた。従兄は流れる雲を目で追い掛けている。その目がぎよつと止まった。右手の雲間からもう一つ、真ん丸い月がぼつかりと姿を現わしたのである。従兄は慌てて正面の月に目を戻した。信じられない。月が二つもあるのだ。放尿はまだ止まらない。そのせいで緊張は薄れている。

「月があつちにもあるよ」

従兄は傍らで同様に放尿している私の父親に教えた。言われて父親もそれを知つた。

「何だろうな」

父親ものんびりと応じた。

「これがUFOつてやつじゃねえの？」

なんともしまらない会話であるが、二人は放尿の途中なので反応が鈍くなる。それに今ほどUFOは話題となつていなかった。二人は正面の月をじつ

と凝視した。すると、間もなく月の輪郭がぼやけた。と思つた瞬間、月は四つに割れて小さな球となつた。それが一列に並ぶ。光が金色からオレンジに変化した。そして、あつという間に四方へ飛散して視界から消えた。物凄いスピードである。啞然として眺めていた二人は放尿を終えると無言で車に戻つた。じわじわと恐怖感に襲われたのは峠を下りてからだったと言う。

聞き終えた私の体は震えていた。とても嘘とは思えない生々しさだ。二人はUFOに関してこれまで興味さえ持つたことのない人間たちなのだ。金色からオレンジに変化するなどと詳しく描写できるわけがない。第一、二人が嘘をつく理由もなかる。UFOは実在するのだ、と私はこれで確信した。これだけなら眉唾ものと苦笑いした人もおられるだろう。しかし、その翌日、秋田の新聞にいくつものUFO目撃の記事が掲載された。二人以外に何人もの人々が実は同じUFOを目撃していたのである。従兄は盛んに悔しがつた。直ぐに新聞社に連絡していれば間違はなく従兄の談が紙面を飾つたに相違ない。従兄と私の父親ほどに間近で見た例は見当たらなかったからだ。

UFOが本当に宇宙人の乗り物であるのか、あるいは、その目的となると私にはきちんとした回答ができない。それでもUFOがこの世に存在するのはほぼ確実であると言える。



絵・吉田光彦

人間の実態・意識・テレパシー原理



ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集 連載11〉

この記事はアダムスキーがサンフランシスコで行なった講演の続き。今回はきわめて宇宙哲学的な内容であり、十字架上のイエスの最期の言葉に関する真相も出てくる、きわめて重要な情報。

人間の实体とテレビのたとえ

皆さんが「自分自身とはいったい何なのか」を知る上で有益で機械的な警告を紹介しましょう。

いまは誰もがラジオやテレビというものを知っています。そこでテレビを例にあげてみましょう。

私達はテレビをきわめて無能な装置だということが出来ます。それは他のいかなる無能な物にまさるとも劣らぬほどに無能です。というのは、テレビは自分自身では話すことはできません。自分自身のパワーを持ちませんし、いかなる種類の知性も持っていないからです。

しかしそれは内部にブラウン管やら

何やらの精巧な装置をたくさん備えています。それらが用いられたとき、互いに完璧な協調のもとに機能します。

さて、皆さんはそのテレビのそばに歩み寄ってスイッチを入れ、それにパワーを与えます。しかしそのパワーは見えません。皆さんはそれを電気と呼んでいます。でも皆さんは電気を見たことがありませんか？ ないはずですよ。

皆さんは画面の現象すなわち結果を見ることは出来ますが、電気を見ることはできません。それを感じることはできませんが、見ることはできません。

さて、目に見えないそのパワーが通じることでテレビは生き始めます。その直前までそれは死んでいました。それは自分自身のパワーを持っていませんでしたが、今はそれにパワーが与え

られました。

続いて皆さんが行なうことは、そこについている小さなダイヤルを用いて自分の好きな局を選ぶことです。この場合、ダイヤルを「心」と呼ぶことができます。するとアツというまに映像が進入してきます。画面には皆さんが見たいと思つた特定の個人の映像などが登場します。

画面に出てきた人物はけつして死んではいません。本人は皆さんから二千里も離れた所にいるかもしれませんが、今は皆さんの家の中にもいるのです。皆さんの目の前にいます。本人はそこに出現するために死ぬ必要はありませんでした。彼は生きてそこにいるのです！

彼は皆さんに話しかけます。何かを

演じますし、あるいは踊ります。あるいは皆さんを非難するかもしれません。皆さんがいかにダメ人間であるかを語るかもしれません。しかしそれは皆さんが選んだことです。皆さんの「心」がその局を選択したのです。その局を通じて皆さんの求めているものが、つまり皆さんの「心」が求めているものが入ってきたのです。

呼吸をするテレビ

テレビというものは、どのようにして言葉や音楽あるいは特定の人物の絵をその中に引き込んでいるのでしょうか。ラジオしかなかった初期の頃には人々はそれをエーテル波と呼びました。現在、彼等はそれを電気ブラズマと呼んでいます。そう呼ばれるようになったのはおそらくこの一年あるいはそれ以内のことです。

それは空気の中を振動しながらやっています。そしてテレビはそれを吸い込みます。皆さんが空気を吸い込むの



▲ありし日のアダムスキー

と同じようにして実際に吸い込みます。さらにテレビはそれを皆さんが息を吐くのと同じようにして吐き出します。もしテレビがそれを吸い込まなかつたら映像は出現しません。それは電波を吸い込みます。その電波はそれが運んできた映像をスクリーンに出現させます。

続いてテレビはそれを吐き出します。外に放出するのです。それによってメッセージの持続または映像の提供が可能になります。つまりテレビが映像を出しつづけるためには、コンスタントに電気信号を吸い込んで吐き出しつづける必要があるのです。もしパワーが存在しなくなると、テレビの映像は消えてしまい、テレビは死ぬこと

になります。

人間もパワーが必要

人間の場合もこれと同じです。ここに最も健康な人がいたとしましょう。医師達が彼を検査して完璧な健康体の持ち主だと保証しました。

ところが誰かがそばへ寄ってその人の口と鼻をしつかりと手で押さえて呼吸をできなくしたとします。そしてその状態を四分ほどつづけてから手を離します。するとその形あるもの、すなわち人間は床に倒れます。わずか四分前までは完璧な健康体だと保証された人間がもう死体になっているのです。これは、それまでその人間の内部に入ってきたパワー、つまり叡知や生命の息が、先ほどのテレビの場合と同じように、もはや入ってこなくなつたからです。そのためにその人間は死んでしまいました。

そこで私達はそれを埋めます。その物体は人間と呼ばれていました。でもその機能はテレビとなんら変わるものではないのです！

私達は自分の手で自分を完璧に分析することがとても苦手です。私達がどのように機能しているのか、私達の体がなぜそのような機能しているのかを知ることはできないのです。そのためが偉大な宇宙の創造主は人間の「心」が特定の装置を作るためのアイデアを

持つことができるように取り計らっています。その装置を分析することによって人間が自分自身をよく知るようにと創造主が願ったのです。

意識(生命の息)は万物と関わりをもつ

皆さんは生きているこの大宇宙の中で、何百万マイルも離れた惑星で生きている「人々」と交わることができているのです。それができるのは「心」ではありません。「意識」です。その「意識」は「生命と叡知の海」なのであって、皆さんはその中に生きているのです。それは皆さんの誕生を可能にした父と母でもあります。しかし皆さんは現在の肉体の中に永遠に存在しつづけるわけはありません。

たとえば、あなたは今、スミスさんという人の生涯を通過しようとしているにすぎないのです。あなたはこれまでにジョン・スミスという名前をつけたラベルを貼られてきました。人々があなたを認識しやすくするためです。しかし本当のあなたはジョン・スミスではありません。あなたは今ジョン・スミスというラベルを貼られた「物体」を通過しようとしているのです。そうすると、あなたはいったい誰なのでしょうか？

人間の实体は「生命の息」

あなたは「生命の息」なのです！ しかも、あなたが行くことができる所で、その息を発見できない場所は宇宙のどこにもありません。「生命の息」はあらゆる所にあります。あなたはその「生命の息」そのものなのです！

その「生命の息」は、あらゆる形あるものの**孵化器**であり保護者です。そして皆さんは、もし本当の自分自身というものを知つたならば、微生物から「最高の存在」に至る、あらゆるタイプの知性のすべてを引き出すことが可能になります。そのすべてが存在しているのです！ 皆さんはそのどれとも分離してはいけません。だから皆さんはあらゆるものから解答を引き出すことができます。皆さんはその知性の大海のまっただなかに生きているんです！

「心」に頼っているのはダメ

しかし皆さんはそれを「心」によって行なうことはできません。皆さんはそこに存在する真の自分自身、すなわち「心の親」への信頼を深める必要があります。『心』だけで生きていてはダメなのです。自分は「心」であり、「心」は肉体であり、肉体は「心」であると考えてはダメなのです。

皆さんは「意識(生命の息・因)」にもどらねばなりません。「意識」の中にこそ、皆さんが入手したいと思つている



▲1994年5月4日、日本GAP会員・抜迫英子さんが鹿児島県福山町の錦江湾ドライブインから夕方6時頃、空の黒い雲が気になって写真を撮ったところ、右上に黒い物体が写っていた。秋山真人氏の鑑定によると本物のUFOだという。撮影者はよく不思議な物体や光景を見たりする人。

解答のすべてが横たわっているのです。

「意識」と「心」の違い

「意識」と「心」の違いをお話し致します。私達は人生において、さまざまなラベルを貼りながらも多くの物事をゆがめてきました。そしてそのラベルの氾濫のなかで、どの道を選ぼうかと思いつながら道に迷ってしまいました。

今こそ核心にもどることです。今すぐです。「意識の世界(因の世界)」にもどるのです！

これまで私達は「因」ではなくて、「結果(現象)」の世界と関わって、それを崇拜してきました。

(訳注) アダムスキーのいう意識というのは、宇宙の万物を創造し生かしている根源的な叡知とパワーを意味する。これを彼は「宇宙の意識」(Cosmic Consciousness)と言っている。これは現象の世界を造りだした「因」なるもので、創造主や神と同義であるが、神といえば宗教的に響くので、アダムスキーは「宇宙の意識」という言葉を主体に使用している)

イエスは他の人々が「私の前では他のいかなる神をも持つてはいけません」と言っています。さらにイエスは、「いかなる者もキリスト(救世主)と呼んではいけない」と語っています。なぜなら本当のキリスト(救世主)はこの

宇宙にただ「一つ」しか存在しないからです。それは天(宇宙)に座している万物の「父」です。

だからイエスは人々にむかって「自分を(イエスを)崇拜するな」と諭しています。

(訳注) アダムスキーがイエスに言及するのは、イエスという人が二千年前に宇宙の法則や愛の哲学を説いた偉大な精神世界の指導者であったからである。キリスト教という宗教とは関係はない)

イエスの最期の言葉の真相

ここに奇妙な発言があります。それはイエスが十字架上で最後に語ったといわれる言葉です。彼はまず、

「主よ、主よ、わが神よ、あなたはなぜ私をお見捨てになつたのですか」と言い、つづいて「私の『霊』を、そのみなもとである『父』に捧げます」と語ったといわれています。

この最初の言葉はイエスの不平をあらわしています。これは全宇宙の「因」である神に対する不平だと言われてきました。

しかしそれは間違いです。彼は、その当時の「主」つまり権力者達に対して不平を言ったのです。それはヨハネによる福音書の第一〇章(二一〜三九節)で明確に示唆されていることです。

ユダヤ人達はイエスを取り囲み、石

で打ち殺そうとしました。そのとき彼は人生で初めて死の危険にさらされました。そのとき彼は、

「あなたがたは私が行なつてきた良い事のために私を殺そうとするのか」とたずねます。すると彼らは「いや違う。おまえが自分を神と称して神を汚しているからだ」と答えています。

しかしイエスはそのとき自分の身を守るために、彼らにどのように話したらよいかについて充分な知識を備えていたのです。イエスはすぐに言っています。

「それはあんたらの聖書(旧約聖書)に書かれていることではないか。それには人間は神々であると述べてある。しかも聖書の言葉はすたれることはないんだ」

ここで考えてみて下さい。イエスを取り囲んだ人々は彼を石で打ち殺そうと考えていました。ということは彼らはすでに心の中で殺人を行なつていたこととなります。しかしイエスはそのときでも彼ら人間達を神々と呼んでいます。

さて、当時においては、現在と同様に高い地位の人々がいました。当時の大衆を守るための法律を作る賢者または司祭、その他の人々です。

現在でもイギリスでは立法者達を、『王(Lord)』と呼んでいます。これは上院議員を意味します。ですからイエスが十字架で言ったことは、「善なる

人々よ、善なる立法者達よ、あなたがたはなぜ私を見捨てたのですか」という意味にほかなりません。彼は実際にそう言ったのです。しかしそんなことを言つてもダメであることを知つたイエスは、最後の瞬間に『父』という言葉をお口にしています。結局彼は自分の実体を、それがそもそも発生した場所である『父』に返したのです。

人間は死後、瞬時に生まれ変わる

さて、イエスは一緒にはりつけにされた罪人の一人がイエスに理解を示したとき、「今日あんたは私と一緒に楽園にいるだろう」と言っています。

これは二人とも、死んだあとで墓の中に横たわりつづけるという意味ではなく、また霊としてあちこちを浮遊して歩くというのではなく、十字架にかけられて死んだ直後に生まれ変わった状態になるだろうという意味です。

(訳注)イエスも仲間も死後はすぐに転生するということを意味する)

結局、私達の世界の教えはひどく矛盾しているのです。これではこの世界がこんな混乱におちいつているのも当然です。そもそも宗教界が混乱しているのです。

それに関する面白い記事がありました。それは英国のある宗教雑誌に載っていたものです。それによると、カンタベリー大寺院の主教と、カトリック

教会の司教を含む多くの宗教指導者達が集まって、人間には魂があるかないかを議論しあつたということです。

彼らは歴史を可能な限り古くまでさかのぼつて調べて、さまざまな言葉で記された人間の魂に関する過去の記録を念入りに研究しました。その結果、なんと彼らは「人間は魂を持たない」という結論に至つたのです!

それを読んで私はあつげにとられてしまいました。いったい彼らは何を考えているのでしょうか。

科学者でさえ人間は魂を持つていると言っているのです。人間の実体である魂は、人間を通じて流れている『生命の息』にほかなりません。それは一度として不在であつたことはありません。私達は古代エジプト時代、またはそれ以前と変わらぬほどに遅れた状態にあります。

古い城に入らなかつた アダムスキー

世界講演旅行の最中に私はヨーロッパの古城へ案内されることにうんざりしたものです。城につれて行かれるたびに、その忌まわしい歴史を聞かされたからです。昔、城に大名がいて、その奥方がいた。そして奥方が地下室で首を切り落とされてる間に、上では大名が酒を飲みながら踊り子達とたわむれていたという過去の実話を聞かされるのです。それを聞いて私は吐き気

をもよおしました。そこで私は、頼むからもう古城へはつれて行かないでくれと頼んだものです。

しかしそれは昔、本当にあつたことなのです。当時、女はその肉体の中に魂が吹き込まれていないと信じられていたから、そんな残酷なことが発生したのでです。当時の宗教的な教えがそのような事態を起こさせたわけです。ひどい話です。

しかし皆さんの腕にとまつて小さな膨らみを発生させる、あのちっぽけな蚊でさえも、創造主によつてしつかりと魂を吹き込まれています。

人間の『心』とは何か

皆さんの『心』に関する問題にもどります。これはとても重要なことなのです。

『心』は物質である肉体から作られています。肉体の誕生とともに『心』も誕生します。説明しましょう。よく聞いて下さい。

私達はこれまでに人間は五感から作られてると教えられてきました。知識の欠乏のために人間はそれとおりだと思つていますが、実際にはそうではありません。

自然の中で私達は地、空、火、水を発見しています。この四つは自然界の中のあらゆる形ある物の主要要素です。自然界はいわば神の家であり、化学ブ

ラントです。そして人間も自然と矛盾して生きるわけにはゆきません。人間はいわば自然の副産物なのです。そして人間も五つではなくて四つの感覚器官から作られているのです。

私はベル電話会社にかわって創造主に感謝したいところです。つい最近、といつても三年ほど前のことです。その会社は私が出した『テレパシー講座』を応用したのです。

(訳注)これは現在、新アダムスキー全集第二巻『超能力開発法』として中央アート出版社より刊行中)

その会社のプロジェクトにはプリンストン大学、ハーバード大学、カリフォルニア州立大学ロサンジェルス校その他の多くの大学の研究機関が関係し

ています。

それらの研究機関はそれを『心の未開拓分野』と呼ばれる全国的ネットワークを通じて発表しました。そして人間は五感を持たないということを経験的に証明したのです。それは私のはるか以前に『テレパシー講座』で書いたことです。

人間が実際に持っているのは四感だけです。つまり視覚、聴覚、嗅覚、味覚です。その四つが人間の『心』を作りあげているんです。目が見る物を心は受け入れるか拒絶します。耳が聞く物を心は受け入れるか拒絶します。味覚が味わう物を心は受け入れるか拒絶します。嗅覚に関して同様です。そしてそれぞれ四通りに機能します。

▲上はアダムスキー著『テレパシー講座』。下は日本語版。



一例をあげるなら、人間は冷たさを感じるができます。熱さを感じるができます。酔っぱさりと甘さを感じるができます。感覚器官一つで四つの機能の仕方があるわけです。したがって人間は一六通りの感覚を通じて機能できるのです。それはテレビの一六の放送局のようなものです。皆さんはどの局を選びますか。それを行なうためには人間は自分自身を知る必要があるのです！

人間誕生の不思議な機能

『心』と各感覚は肉体よりも前に出来たのではなくて、肉体が最初に誕生します。それから『心』や感覚器官ができるのです。現在はこの地球上で生きている人間の誰一人として、人間の受胎から赤ん坊の誕生に至る実際のプロセスを正確に説明できる者は一人としていません。いかなる聖人でも不可能です。それを知っているのは創造主だけです！

想像してみてください。まず最初に小さな点がありました。顕微鏡を使用しなければ見えないような小さい点です。人間はそれから誕生したのです。

それは突然成長を始めました。外側にどんどん分岐してゆきます。無数の細かい糸が外側にむかつて伸びてゆきます。どんなクモの糸よりも細かい糸で、どんなものよりもデリケートな糸です。

その各糸は何かを意味しています。各自が人間の肉体のどこかの部分になるうとしています。腕、指、神経、血管などになろうとするのです。みんな何かを意味しています。それらが最終的に十分に成長したとき、その周囲に肉体が形成されたのです。

それはちょうど建物の骨組みのようなものです。しかしまだただの骨組みです。あちこちからパイプなどが突き出ています。つづいて特定の物質がこれらの周囲を覆い始めます。そして形あるものが形成されてゆきます。

これと同じことが母親の体内で発生するのです。神経はそれぞれ絶縁されます。そして最後に出現するのが感覚群です。目や耳などは最後に作られます。皆さんが家を建てるのと同じようにするはずですよ。おそらく皆さんが家を建てるのときに最後に取りつけるのは扉や窓でしょう。それらはいわば家の目であり耳であり、鼻であり口であるわけです。

創造主は常に明確なパワー、明確な叡知、明確な計画とともに作業を進めています。この地球上にいる誰一人としてそれに関する詳細を知りませんし、それと同じ事を行なうことはできません。どんなにすぐれた科学者でも不可能なことです。

母親が感じる不思議な現象こそテレパシー

子供を孕んだ母親は、ときおりある特殊な食べ物をおむしように食べたくなります。なぜなら、それは母親の体内の赤ん坊が必要としている特殊な栄養を補うためなのです。

また赤ん坊は母親の体内で体の向きを変えるとき、「ママ、体の向きを変えるよ」とは言いません。しかし母親は赤ん坊が体の向きを変えることを前もって知っています。いったいどのようなにしてそれがわかるのでしょうか。

さて、ここで非常に重要なポイントにさしかかっています。母親はおそらく「私はそのフィーリングが起こった、なんとなくそう感じた」と言うでしょう。

それこそが「宇宙の言語」して知られている声なき言語なのです。それは創造主があらゆる物に語りかけるときに用いる言語です。それと同じ言語を用いて、母親の体内の赤ん坊は体の向きを変えるつもりであることを母親に伝えたくわけです。それはこの世界では「テレパシー」または「予感」などと呼ばれています。それを何と呼ぼうと問題ではありません。とにかくそれが創造主の知っている唯一の言語なのです。あらゆる生物はこの言語を知っているのですが、人間だけは知りません。

我々はなぜテレパシー能力を持たないのか

人類はなぜその宇宙の言語を理解し

ないのでしょうか。それは、人類は自分達の都合で自分達の言語を作りあげてきたからです。それが創造主の言語とは異なるものであることをこれから説明しましょう。

いかなる人間でも人知によって肉体の内部に新しい肉体を作りだすことはできません。でも人間はこれまでに延々として創造されてきました。今でも毎日創造されています。

つまり人間を創造するのは「至高のパワー」の存在があるからです。その方法を知っている「至高の叡知」が存在するのです。それは人間だけではなく、野菜の他、成長をつづけるあらゆるものの内部でも作用しています。人間は創造者と同じ叡知とパワーを応用することが出来ます。人間は生まれながらにしてそれを持っているのです。というのは、人間は「創造主」から誕生しているからです。

しかし人間は「心」にあまりにも強く依存し、「宇宙の意識」に全く注意を払っていないために、そのパワーを利用していません。

では「心」は何をするかについて考えてみましょう。もし皆さんが私の「さらば空飛ぶ円盤」新アダムスキー全集第六巻「UFOの謎」に収録）をお持ちであるならば、その最後に掲載した

「サタンすなわち時の人」を読まれたことと思います。その中で私は人間の「心」がこれまで行なってきたことをか

なりうまく説明しているつもりですが、まだ読んでおられない方は一応目をお試してみして下さい。

怒りの想念の悪影響

私は皆さんのために食事を作れます。一歳の子供でも安心して食べられる良質の食事です。しかし、もし皆さんがテーブルについてその食事を激しい恐怖心とともに食べたとしたら、あるいは激しい怒りや苛立ちとともに食べたとしたら、皆さんは二〇分もすぎてもから大急ぎで胃腸薬を求めようになることを保証します。

一方、皆さんの心が正しく機能しているならば、少々腐敗した食物でさえも食べることが出来ます。

これはどういうことなのでしょう。最初の状況を分析してみましょう。

もし生きている個人が激しい怒りとともにテーブルにつき、そこにある食物を食べたときには、その行動によって、人間の肉体の完璧に一体化した機能をゆがめることになるのです。そのとき、肉体を完璧に調和させ、最高の状態に維持しようとしている肉体内の化学ユニット群を分離させることになるからです。それらは生きた化学者なのです。

そこで食べ物皆さんの体内に入るやいなや、体内のある化学者がその食べ物を分解して消化し始めます。そし

てその食べ物完全に分解されると、別の化学者がやってきて、それを最も必要としている肉体内の特定の場所に送り届けます。人間の「心」はそんなことにまったく気づきません。「心」というものは体内のそんな作業に全然関係はないからです。人間は食べ物を口に入れるだけで、それ以後のことはまったく無関係なのです。

その事実は、人間の肉体内に自分の「心」が知らない内にその食べ物の面倒を見ている熟練した化学者達がいることの明確な証明になります。

さらにそれらの化学者達は不必要なものを持ち去ったりもします。摂取された栄養素が過剰であった場合は、それらは適当な場所に蓄えられるのです。そして蓄えられたその化学物質類のコンビネーションは、いつの日か必要となるときに特定の場所へ搬送されるというわけです。(以下次号)

訳注 右の文章は最後が尻切れトンボになっているが、要するに人間の体内の超高度に精密な作用を行なう各器官の働きを人間は全く意識していないけれども、肉体を行かす根源的な叡知とパワーによって身体は自動的に整然と活動して生かされている。それに対して怒り等の分裂想念を持つならば、その波動が体内の各器官に悪影響を与えているので想念に要注意という趣旨を述べられているのである。以上は想念と肉体との関係の重要性を説いた哲学。

熱気に満ちた第一回高松支部大会

支部代表 関 高明

去る五月二七日、快晴の高松空港に降り立った久保田先生と助手として同行された本部役員の加藤純一氏、津田篤孝氏をお迎えして、ただちに例の高松円盤降下事件の場所に行つて実地検分を行なつた。今はもう回りに小学校その他の建築物が建つて、事件当時の様子とは随分違つている。近くに源平合戦で名高い屋島が一望でき、目撃場所は良いフリーリングを放つていようだ。

翌日は「高松テルサ」の視聴覚教室において第一回高松支部大会が開催された。久保田先生が「宇宙哲学で絶対に安全に生きる方法」と題して熱弁をふるわれ、広大な知識を次々と披露し、参加された会員に多大な感銘を与えられた。

なかでもイエスの時代から今日までの歴史的な出来事や先駆的な指導者の名を挙げて、真実は必ず勝つことや、宇宙の意識と共に生きる自分自身の完璧なイメージを持ち続けることの重要性及び、安全に生きるには、自分には危険な物事が絶対に近寄らないという

確固たる信念を常に持ち続けることが大切であることを力説された。講演の最後には大宇宙思念法を実施し、会員の高揚したフリーリングとあいまって、会場全体が高次元の雰囲気包まれた。続く質疑応答でも、宇宙的な次元の高い質疑が続き、先生からじかにお聞きしなければ分らない回答も多々あつた。

夕食会では先生と会員同士の交流を深め、遠方からご参加頂いた会員及び関西、中国、四国地方の会員の親睦を図ることができた。

そのあと場所を同会館の和室に移し、二次会として先生の回りに会員が座り、重要な情報をご教示頂いた。一同は一言一句を聞き逃すまいと真剣に聞き入つていた。夜遅くまで語りあつたが、高揚した気分が続き、しばらく眠れない状況だった。

二九日は会員有志で先生を屋島、平家物語歴史館、瀬戸大橋へと案内し、八百年昔の歴史から現在の最高の技術まで十分に堪能され、瀬戸大橋のたもと坂出市で解散した。

今回は初めてということもあり、多すぎごちないところもあつたが、この企画に快く承諾され、全力投球で臨ん

で頂いた久保田先生に衷心より御礼を申し上げます。また全国より多数の祝電を頂戴し、皆様の声援に心から感謝申し上げます。最後になりましたが、先生と同行された加藤氏、津田氏その他の参加された方々に深謝申し上げます。

最高の雰囲気の大合

久保田八郎

第一回高松支部大会が開催されて心から祝福したい。連休でなかつたせいから参加者は予想を下回つたようだが、私は人数の多寡をいっさい気にすることなく、渾身の力をふるつて宇宙哲学を語つた。熱を入れて喋りすぎた感もあるが、これは皆さん方があまりにも真摯な態度を示されたからである。会場の「高松テルサ」は凄く立派な建物で、会合、宿泊、夕食会等がすべてここで実施できるため非常に便利だ。

夕食会では懐かしい方々とともに久闊を叙し、大いに旧交をあたためた。最後には別室で二次会を開催。一二時まで徹頭徹尾質疑が続いたが、こんなに話し続けた経験はめつたにない。

その前日には高松市の木太町で一年前に発生したアダムスキー型円盤の降下という大事件の跡を克明に検分した。蒼穹の彼方からまたも円盤が急

降下してくるようなフリーリングがわき起こる。ヒロインの西本奈生ちゃんはずでに長身の美少女に成長しているという。ひとつの歴史が過ぎ去つた。

大会翌日の二九日には一人名で標高三九九メートルの屋島へ行く。一八五年の源平の戦場跡を望見すれば昔日の勇士達の幻影が去来して、歴史の意義を反芻する。この日、寒風が騒いだ。

午後訪れた平家物語歴史館は素晴らしい見物だった。二六〇体に及ぶ等大の蠟人形で構成された源平の大合戦の名高い場面がパノラマとなつて次々と展開。時代考証を凝らした豪華な服装や武器に瞠目のほかはない。これら迫真のシーンを凝視しながら私は一台のカメラでアクシスを変えて立体写真を撮りまくつた。

初めてみる瀬戸大橋にも驚嘆。この壮大な技術のミニメントをいつか快晴の日に大型カメラで撮影して世界中の知人にばらまきたいものだ。

高松市は戦災で八〇パーセントを焼失。戦後一大都市計画を実施し、長大な中央通りを中心に全市街がゴパン目に区画されて近代的な大都市に変貌した。名古屋市と同様、偉大な政治家が出るか否かで環境に雲泥の相違が生ずるといふレッズンを与える街。何事も人間次第であることを痛感する。

素晴らしい大会であつた。お世話になつた関代表、その他の方々に深謝致したい。



▲左上より久保田会長の講演。参会者（全員ではない）。夕食会にて。
 右上より屋島の展望台。瀬戸大橋（坂出側）。名物讃岐うどんの店で左より加藤、久保田、津田。
 撮影／関、齋田、加藤

▼前列左より5人目が久保田会長、その右は関代表。



Letters

ユークン広場



御挨拶

静岡県 高梨十光

冠省 久保田先生いつもありがとうございます。先生には益々御健勝のことと御慶び申し上げます。

先頃は素晴らしい内容のUコン二九号を御送り下さいまして誠にありがとうございます。何回も拝読するうちに、久保田先生が万人が救われてほしいという真に暖かい御心情を御持ちであることを拝察して驚いてしまいました。

また三月の記念月例セミナーでは、長きに渡って多大なる御厚情を頂いているにもかかわらず、何一つ御手伝いできなくて恐縮しております。小生は実に感動して御礼の手紙を差し上げるつもりでしたが、多忙ゆえにその機会を逸してしまいました。下さとも御見捨てなく御指導御鞭撻下さいませ。御願ひ申し上げます。末筆ながら久保田先生と令夫人の御健康と御活躍を御祈り致します。

愛の大きな人間に成長したい

千葉県 前田町子

拝啓 大変な時代に立派に使命を果たされていらつしやいますことに敬意を表しております。勇氣がなくてなかなか行動に移せずにおりまして、遅れ馳せながらGAPの皆様と合流させて頂きたいと思ひます。まだ導かれ中ですがいつか私も宇宙の皆様のように愛の大きな人間に成

投稿歓迎字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

長したいと願っております。

アダムスキー理論を学んで参りますと必ず神様の扉が開きます。第三の目というのでしょうか。扉が開いた方もGAPで仲良く生命の科学を伝えていけたら最高であると思ひます。私もスペースブラザーズの皆様御手伝いができるなら幸せだと思ひます。かすつて参りました。わずかつてですが行動で示していきたいと思っております。

UFOの出現には意味があるというのを考えておりましたら、「金星・土星探訪記」に同じことが書かれておりました。

「…私達の時代の真の状態をどんなふうにして説明し得るか。…」

「…生命の真実性を望み真自我を求めてエゴを捨てようとする人によるその真の状態をどのように伝えたらよいかという方向に努力を注ぐためのものでした。…」

「…永遠性が確立されるのはこうした方法によるのです。…」

宇宙の皆様は私達の魂の永遠性を確立するためにUFOで導いて下さいます。現在の心の状態を寸分の狂いもなく、適切な場所・色・飛び方で教えて下さっていることに気付きました。そこから自分がどれだけ多くのことを読み取ることができ、かそして学んだことを日常生活の中で

どれだけ応用したかにかかっています。UFOを読み取る力がそのまま宇宙を読み取る力となり、また心を読み取る力にもなります。それが創造主の御手伝いをさせて頂く時に役立つようになるのです。「宇宙の英知と共に」となるの中で唱えた時に白いUFOがバツと現われなす。この穏やかな気持ちでどんな時もずつと保ち続けたいと願ひ应用中です。

素晴らしい高松支部大会

広島県 桑原公子

先日第一回高松支部大会に出席しました。先生の生の御話しを間近で聴き、本やテープでは味わえない先生の波動を直接感じた貴重な体験でした。本当にありがとうございました。夕食会では皆さんがとても気さくですぐに溶け込め違和感もなく大変楽しむことができました。私にとつて久しぶりの愉快な記念すべき一日となりました。

当初はすぐに帰る予定でしたが、御講演を御聴きするうちに「是非とも夕食会に参加して頂きたい」という強い印象が過ぎて申し込みました。

会場では福山市からいらした女性と北九州市の男性と知り合いました。親しく会話を楽しみ、帰りはその男性がお車で私達福山市の二人を送って下さいました。この幸運なハプニングには大変満足し、その方達には感謝しています。自分の内部に湧き起る印象に注目したことの大切さを改めて認識致しました。

今後とも志を同じくする人達の集いの場に積極的に参加し、交友を深めて高めたいと思ひますので宜しくお願ひ申し上げます。

宇宙哲学で奇跡が発生

愛媛県 小野守

懐かしい久保田先生、御元気でですか。会費切れにもかかわらず今回も引き続き二度に渡り会誌を御送り頂き誠にありがとうございます。

あれから随分長い時間が経過しましたが私の生涯を通じての偉大な指針であるアダムスキー哲学を離れた訳ではありませんでした。二年半前頃からある事情により金銭が湯水のようにならぬに流れてゆき落ち着かない毎日を過ごしていましたが「必ず良い方向に導かれていく」という気持ち（信念）とまではゆきませんでした。

念と、就寝前にはオーソンさんを心に描いたり、写真に向かったりしてスペースビープルに救いを求めておりました。すると周囲の者も不思議がる奇跡が起こり、後に憂いを残すことなく全面的に解決致しました。久保田先生の録音テープには本当に力付けられました。どうかまた会員として御仲間に入れて下さい。

いつかは協力を

宮城県 笠原弘可

東京月例セミナー三〇〇回達成おめでとうございます。心から御祝ひ申し上げます。先生の超人的なパワーと御努力に深く敬意を表する次第です。

現在順調に学校通いを続けており、一年生は無事終了しました。勉強そのものはまじめにやっておれば何とかなる程度のもので。家庭を持つての身ゆえの不自由は覚悟の上ですので、後は気力と健康ということになります。

先生から頂く「意識の声」は私にとつてこの上ない励ましになります。今回は「必要性を感じる」ことの重要性を述べられておりました。弱気の時「宇宙の意識と共に仕事をやるのだ」と自分を叱咤しています。そして「来世は土星に生まれ変わる」と念じて精神を高揚させています。何故か土星に非常な魅力を感じます。

そのためにも「数多くの人々の役に立つ仕事をせねばならない。今はその知識と技術を身に付ける時だ」と焦る気持ちをなだめています。今でもそれこそ上京して先生のそばでGAPの仕事を手伝いたいという気持ちがありますが、環境的にも実力的にも経済的にもそういかなのが残念です。

けれども私にはもう一つ夢があります。治療院が開業して軌道に乗れば、心置きなく先生への御協力ができる。先生は一〇〇歳くらいまで元気で活躍されると決めつけていますので、先生の今生での仕上げの時期の御手伝いはできるとイメージしています。

真理とは何か

東京 浜田敏博

現代の科学者の中には、科学とは人間によつてつくられたものであつて、人間にとつての意味や真理を表しているという考え方をされる方々が多いです。

しかしこの考えによれば、私達と異なる科学的真理を持つた異星人は私達と異なる科学を有していることになり、更には彼らにとつての真理

が人類にとつての真理と異なるという考えが生じかねません。確かに科学的進歩の度合が異なることはあったとしても、究極にある真理はやはり唯一のものであると思います。ニュートンの故事に倣うと、人類も異星人も真理の大海の前にある浜辺で貝殻を拾い集めているのであって、集めた貝殻の種類が互いに異なることをもって、人類と異星人の科学的真理が異なることになるのだらうと思います。

東京月例セミナー三〇〇回を祝す

栃木県 冲山 洋

月例会三〇〇回達成、誠におめでとうございます。先月の特別月例会にて先生とGAPの歴史を拝見させて頂きましたが、改めてその歴史の長さや充実さを感じた次第です。

太平洋戦争の混乱の時代を乗り越えられ、アダムスキーの書物に出会いになり、数々の障壁を乗り越えられてGAPを続けてこられた先生の信念に多大な感銘を受けるとともに、このようなGAPという場を提供して下さった先生に心から感謝を申し上げます。

これからも先生の御健康と御発展を御祈り申し上げてゆこうと思っております。本当にありがとうございます。

御挨拶

神奈川県 加藤裕子

先生には日頃夫婦で大変御世話になり本当にありがとうございます。私はもう八カ月の大きなお腹となり、残念ですが月例セミナーには出席できませんので、今までの御礼を申し

上げたくてペンをとりました。

私が日本GAPに入会させて頂いてから一九年程になります。こんなに長い間先生の御側に居ながら自分が少しも変わっていないような気がしてため息がでます。でもこんなに続けてこられたのはGAPが居心地が良く自分に合っていたためかもしれません。もちろん久保田先生の御人柄ゆえだと思えます。毎月の月例会に出席させて頂くのがとても楽しみです。その月例会をしらばらくの間御休みさせて頂くのはとても寂しい気持ちでいっぱいです。何らかの悩み事や心配事があっても先生の御話の中に必ずその答えを見つづられました。GAPの月例セミナーは本当に素晴らしい場だと思います。これからは主人に話を聞き、テープを聴いて、生まれてくる赤ちゃんと一緒に学んでゆきたいと思えます。

長い間にいろいろな事がありました。その度に先生から過分の激励と御世話を頂きました。特に昨年主人(本部署員・加藤純一)と結婚しました折には何から何まで御世話になりました。本当にありがとうございます。主人と一緒にいられましたのも、心に残る素晴らしい結婚式を挙げられましたのも、すべて先生の御蔭です。今月結婚一周年を迎えました。もうすぐ私達の子供が生まれます。

これからも主人は久保田先生の御側に居て御役に立てるようできる限りがんばると申しておりますので、私達で御役に立つことがありましたら何でも御手伝いさせて頂きたい。久保田先生、本当に長い間ありがとうございます。これからもまた宜しく御願い致します。

●行こう 久保田会長応援と観光の楽しい米旅行へ!



アダムスキー大会とアメリカ東部の旅

今年9月8、9、10日の3日間、アメリカの首都ワシントン市で、ニューヨーク州ロチェスターUFOR研究会主催の「アダムスキー大会」が開催されます。(正式名称は Friends of Adamski Conference)。これには米国のアダムスキー研究家連を主体にし、アジアより日本GAP会長・久保田八郎先生、ヨーロッパよりアンマークGAPのハンス・ピーターセン氏が出演して、約10名の講師が3日間にわたりアダムスキー問題の講演を行ないます。そこで、歴史的なこの大会に出演される久保田先生を応援し、さらに

黎明会代表 津田篤孝/幹事 加藤純一

ワシントンとニューヨークの両都市の観光をかねて、日本GAPの若手会員有志で結成している黎明会は「アダムスキー大会とアメリカ東部の旅」を下記の要領で実施することにしました。日本GAP会員とその家族なら誰でも参加できます。すでに12名の参加希望者がありますが、まだ間に合いますので多数ご参加下さい。めったにない米東部旅行を久保田先生と共に大いに楽しもうではありませんか。旅行中には先生を囲む質疑応答の研修もあります。希望者は下記のスバルツーリスト社へ案内書をお申込み下さい。

- 期間 1995年9月7日～13日(1週間)
- 費用 ¥198,000
- 定員 20名
- 企画 日本GAP内「黎明会」
- 旅行社 株スバルツーリスト
〒150 東京都渋谷区神宮前3-22-9、
満月ビル3F
☎03-3470-5315
- 申込み締切り 8月7日(費用送金をすること)
- 案内書 株スバルツーリストへハガキでお申込み下さい。
- 説明会 8月27日(日)午後5時より。
会場=東京都内(申込者に詳細を通知します)

一日 程一

- ★ 9月7日 成田出発(ユナイテッド航空を予定)
- ★ 7日 ワシントン市着(米国は日付が1日遅れ)
- ★ 8日 3日間の内、久保田先生出演の9日に全員で大会に応援出席。
- 10日 他の2日間はワシントン市内観光。
久保田先生の講演とスライド説明は英語で行なわれるが、旅行参加者多数の場合は日英両語を交互に用いて話す予定。
- ★ 10日 夕方ニューヨーク市着。
- ★ 11日 ニューヨーク市内観光。
- ★ 12日 ケネディー空港発(ユナイテッド航空を予定)。
- ★ 13日 成田着。

UFO contacteeバックナンバー主要記事

★在庫は101号と105号以降全部(100号以前と102,103,104号品切れ絶版)。代金後払い可。ハガキに号数、冊数、住所、氏名、電話番号を明記して日本GAP宛気軽にご注文下さい。バックナンバーに限り送料は当方サービス。

No.129 1995年(平成7年)4月25日発行 ¥900

地獄の大地震からの奇跡の脱出——平塚和義
大地震を前夜予感した私——西村悠子
偉大な教訓となった大地震——田辺健司
ロスで見かけた異星人女性——加藤純一
アダムスキーの大地を訪れて——黎明会有志
巨大母船、安比高原に出現！——秋山和広
サイコメトリーによる書物の質の感知法——林 国宣
UFOの速度・肉体と魂・
真の科学・長寿法——G・アダムスキー

No.128 1995年(平成7年)1月25日発行 ¥900

アダムスキー・永遠の真実と栄光——ダニエル・ロス
わが母の驚異のUFO目撃——ミシェル・ジルガー
総会の日にUFO出現
那須高原で巨大母船出現！——堀江健一
ダニエル・ロス氏宅訪問記——久保田八郎
あなたもオーラが見える——遠藤昭則
予知能力を持つ土星人女性の援助——G・アダムスキー

No.127 平成6年10月25日発行 ¥900

UFO出現の国—メキシコ——久保田八郎
ロスウェル事件とMJ12文書——坂本貢一
UFO目撃と不思議体験の旅——4名執筆
私もアダムスキー型円盤を見た！——田口邦雄
UFOとオーラと想念——山崎和子
奇跡的に難病を治す方法——久保田八郎
異星人とUFOの真相(2)——G・アダムスキー

No.126 平成6年7月25日発行 ¥900

驚異の瞬間移動とUFOの超低空降下——久保田八郎
UFOを頻繁に見る私のカルマ(2)——溜池みゆき
GAP活動と共にUFO出現頻発——林 寛子
東北自動車道に母船が出現——林 慎子
私も母船を見た！——津田篤孝
ム—大陸から見た原日本人——澤入達男
昔のUFO目撃の思い出——橋本恵一
異星人とUFOの真相(1)——G・アダムスキー

No.125 平成6年4月25日発行 ¥900

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ——久保田八郎
私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た——大野義和
UFOを頻繁に見る私のカルマ——溜池みゆき
不思議な予知透視——米川宣雄
突然出現した不思議な人間——千葉敏江
生命と物質と超能力——伊藤睦史
異星人はなぜ地球へ来るのか——G・アダムスキー

No.124 平成6年1月25日発行 ¥900

信念の力、希望の力、絶対に諦めない力を起こす方法——久保田八郎
今世紀末、大変動発生なし！——秋山眞人
私を助けてくれる異星人達——上原則子
アダムスキー型円盤、長時間出現——石井佳子
浅草上空に出現したUFO——堀江健一
UFO・宇宙・人間——G・アダムスキー

No.123 平成5年10月25日発行 ¥900

凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視——編集部
私を助けてくれる異星人(1)——上原則子
山梨県に出現した巨大UFO——編集部
エゼキエルはUFOを見た？——久保田八郎
私はアダムスキー型円盤を見た——海瀬宏子
UFOと異星人の実態——G・アダムスキー
謎の古代マヤ遺跡とUFO——久保田八郎

No.122 平成5年7月25日発行 ¥900

金星文字を解読してUFOの推進原理を解明！——バシル・バン・デン・バーグ
星々への切符——遠藤昭則
オメ教授が発見した金星？文字——久保田八郎
不思議な体験連続の人生——千葉福造
オーラで異星人を見分ける——紙屋光孝
私だけが見るUFO——須山有美子/宮本浩子
万物は人間の想念に感応する——塩谷信男
四感・生命の息・転生——G・アダムスキー

No.121 平成5年1月25日発行 ¥900

バロマー山にUFO出現——久保田八郎
宇宙ポータルはUFO——
アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！——
江戸川堤防の怪光体——鈴木 武
不思議な筒状の雲——沼倉孝彦
人間・イメージ・波動——佐々木八郎
驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動——G・アダムスキー

No.120 平成5年1月25日発行 ¥900

宇宙的な信念と勇気を起こす方法——久保田八郎
二人の異星人からの忠告——辻 俊昭
テレバシーで植物を動かす方法——遠藤昭則
人間は生来テレバシー能力を持つ——堀江健一
夜空の不思議な“映像”——田辺優子
重力と宇宙の自然のパワー——G・アダムスキー
モアイとUFOの島へ——伊東芳和

No.119 平成4年10月25日発行 ¥900

夜空に不思議な「U」の文字が出現——久保田八郎
私の超能力開発体験と異星人女性との出会い——佐々木八郎
瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快——口ノ町一男
ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る——
神室山上空のUFO——穴原美智子
UFO・異星人・地球人——沼倉 孝彦
G・アダムスキー

No.118 平成4年7月25日発行 ¥900

イエスの実像と転生の法則——久保田八郎
計り知れぬ影響力をもつアダムスキー——中村省三
宇宙の意識とともに願望を実現させる方法——高梨十光
私のUFO目撃と不思議な体験——川野晶子
音楽は生命エネルギーを運ぶ——鷲見 弘
UFO・異星人・地球人(1)——G・アダムスキー
天地万物との一体化で長寿——塩屋信男



1995 GAP-JAPAN GENERAL ASSEMBLY

1995年度

日本GAP総会開催

全国の日本GAP会員の皆様ご待望の総会の季節が近づいてまいりました。今年は9月23日の連休初日に、わが国UFO研究家の第一人者である秋山真人博士をご招待して、別な惑星の文明と人間の創造性について、大講演を行なって頂くことになりました。興味深い有益なお話を間近に聞ける絶好の機会ですから、万障お繰り合わせの上、多数ご来場のほどをお待ち致しております。夕方は恒例の大夕食会を同会館で開催。年に一度の大集会で互いに健在を祝福しあおうではありませんか。本部役員一同あたたかくお迎え致します。

日本GAP本部役員幹事 田中 淳



機械振興会館

講演
哲學博士 秋山真人
「別な惑星の文明と創造性」

日本GAP総会 (予約不要)

- 日 時=9月23日(2日連休の初日)12時受付開始/1:00開会
- 会 場=機械振興会館 地下2階大ホール
東京都港区芝公園 東京タワー前 (芝公園は本物の公園ではなく、単なる地名)
- 交 通=都内JR山の手線電車で浜松町駅下車(東京駅より三つ目)降りたホームを有楽町方向(東京駅方向)の端まで歩き、階段を降りると同駅の北口へ出る(注意=この駅から羽田空港へ行く大勢の人が同じホームの昇り階段を登るが、これにつられて一緒に昇らないように)改札を出て駅隣の超高層「貿易センタービル」の正面まで数10メートル行くと東京タワー行きバス停がある。タワーまで約8分。料金¥200。貿易センタービル手前横にはタクシー乗り場もあり、タワーまで約5分。料金¥650。徒歩約20分。タワー前の道路をへだてた斜め向かいに機械振興会館がある。休日は正面玄関が開けられているので、右へ回って右側面入口から入り、エレベーターで地下2階で降りてすぐそこ。
- 会 費=¥4000 中学生¥2000 小学生以下は無料。受付で納入。

—プログラム—

- 1:00 会長挨拶 久保田八郎
- 1:10 講演「別な惑星の文明と創造性」秋山真人先生
- 3:00 休憩
- 3:15 テレバシー練習(優勝者1名に賞品贈呈)
- 4:10 米國アダムスキー大会の報告 久保田八郎
- 4:30 質疑応答 秋山真人先生
- 5:00 閉 会

※ご注意=総会中のストロボ付カメラ、ビデオカメラ等による撮影、テープレコーダーによる録音は自由ですが、講演その他の発言内容の著作権は日本GAPに帰属しますから、個人または日本GAP以外の他の団体が印刷使用することはできません。

大夕食会 (要予約)

- 日 時=総会終了後 6:00→8:00(時間厳守)
- 会 場=機械振興会館 6階65+66号室大ホール
- 受 付=入場受付5:30
- 会 費=¥7,500会場受付で納入(中学生割引なし。小学生以下は保護者同伴で無料)飲物(ビール・酒・ウィスキー・ソフトドリンク等)は飲み放題。
- プログラム=6:00開会、会長挨拶。乾杯(音頭は大阪支部代表・平塚和義氏)、食事、歓談
- ※ご注意=大夕食会は立食形式のため自由に移動可能愉快に歓談して楽しくすごして下さい。ただし秋山先生に質問することは一切ご遠慮下さい。出席者はある程度きちんとした服装をお願いします。椅子は多数あります。
- 2次会=9:00→11:00 会費¥3,000程度。多少の変動をお含みおき下さい。会場は銀座8丁目のギンザナイン地下「天狗」奥座敷。希望者はタワー前からタクシーで「新橋の土橋(どばし)交番前」と告げて直行すれば早い数人でワリカンで乗れば安い。タクシー料金約¥800。

ホテル (要予約)

- ホテル=銀座キャピタルホテル(昨年と同じ) 千104 東京都中央区築地(つきじ)3-1-5 ☎03-3543-8211
- 料 金=シングル ¥7,500(朝食・サービス料込み・税別) ツイン ¥15,000(同)
(昨年度より約¥3000安くなりました!現在、シングル60室、ツイン10室を確保)
- ※ご注意=ホテルは団体予約なので必ずスバルツアーリストへお申込み下さい。

都内観光 (要予約)

- 日 時=9月24日(連休2日目)雨天決行
- 参加費=¥1,000 出発前の集合時に納入(昼食代別)
- 方 法=ホテルロビーに9:20集合。参加者全員を小班に分けて、各班に本部役員が2名ずつ付き添って案内します。交通が渋滞するため貸切りバスは不利なので電車を利用して全員一緒に移動します。これが早くて安全。
- コース=9:20ホテルロビー集合/9:30出発→10:00東京駅着→国会議事堂・各省庁官庁街→新宿御苑(昼食)→渋谷区恵比寿のガーデンプレイス→4:00東京駅着・解散。

予約申込

- (1)大夕食会=ハガキに「総会後の大夕食会出席予約」と書いて住所・氏名・電話番号を明記の上、9月20日までに(必着)日本GAP宛お送り下さい。
- (2)ホテル=ハガキに「日本GAP総会ホテル予約」と書いて氏名・住所・電話番号・宿泊日・シングル/ツインの別を明記し、宿泊料を現金書留で下記へ9月6日までに(締切り厳守)ご送金下さい。
(注意=日本GAP宛ではありません)
〒150 東京都渋谷区神宮前3-22-9
満月ビル 3F
スバルツアーリスト 小林様(宛)
※送金後にキャンセルした場合、宿泊日の15日前までのキャンセルなら全額返金。14日前から7日間までの間なら20%、6日前から前前日までの間なら50%の取消料を差し引いて返金します。前日と当日のキャンセルの場合は全額返金できません。
- (3)観光=ハガキに「観光参加希望」と書いて、住所・氏名電話番号を明記の上、9月20日までに(必着)日本GAP宛お送り下さい。

George Adamski

新アダムスキー全集

ジョージ・アダムスキー＝著／久保田八郎＝訳
全面改訂・改訳／全10巻／各 四六判



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性和真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

① 第2惑星からの地球訪問者 ●352頁●定価＝1,980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者自ら円盤や母船に乗り込み、他の惑星の超絶の大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) ●192頁●定価＝1,300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

③ 21世紀/生命の科学 ●208頁●定価＝1,300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心靈現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

④ UFO問答 100 ●216頁●定価＝1,300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

⑤ 金星・土星探訪記 ●380頁●定価＝2,400円

アダムスキーが母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と土星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

⑥ UFOの謎 ●262頁●定価＝1,980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

⑦ 21世紀の宇宙哲学 ●148頁●定価＝1,030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

⑧ UFO・人間・宇宙 ●370頁●定価＝2,400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

⑨ UFOの真相 ●320頁●定価＝1,980円

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。アダムスキーの高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解説して画期的な永久モーターを開発したバジル・バン・デン・バーグらの証言が白眉。「サンピエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー ●232頁●定価＝1,300円

歴大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結編。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ一冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

別巻 UFO-宇宙からの完全な証拠 ●480頁●定価＝2,800円

ダニエル・ロス＝著／久保田八郎＝訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL＝03-3561-7017／郵便振替＝00180-5-66324

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き送料がサービスとなります。
*定価は、全て税込みです。

UFOと異星人の真相

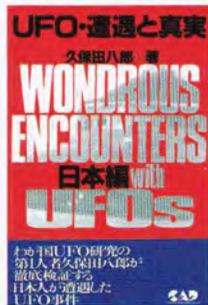
●久保田八郎著 定価1650円 送料310円 四六判・256頁

UFO研究の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとに構成されています。青年が著者に語った証言を通してUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を豊富なイラストを使い、詳細に明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも触れ、様々な疑問を解消していく内容になっているUFOを研究する人の必携の書です。



UFO・遭遇と真実 —日本編—

●久保田八郎著 定価1500円 送料310円 四六判・264頁



日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編纂した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されれば代金後払いで直送します。



中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL = 03-3561-7017 / 郵便振替 = 00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No. 10

発行 日本GAP

B 5版 / 12頁 / コート紙使用 / ¥500 送料¥190 / 5冊まで¥270 / 6冊以上¥390 (No. 1-3は届切れ)

日本GAP発行英文版ユーコン誌は理想主義的なUFO専門誌として、世界各国のUFO研究団体や個人研究者から絶賛をあげています。多くのUFO研究誌はオバケ宇宙、誘拐事件、その他恐怖心を煽るような記事に終始しているなか、日本GAPは日本語版・英語版とも地球の未来に大いなる希望を持ち、人間の無限大の可能性を引き出すための指針に満ちた記事を掲載しています。英文版第10号には昨年総会におけるダニエル・ロス氏の講演全文を掲載。他にも新アダムスキー全集第4巻掲載の質疑応答の原文、日本GAPの活動状況を伝えた記事等が流麗な英文で掲載されています。もとの日本語記事と対照して読めば英語学習にも最適です。

恒編集末後記



●「M氏の「UFOと異星人」体験」は、すでに出版している単行本「UFOと異星人の真相」の続編で、当初はこれと同書を合わせて「本」にする予定でしたが、単発記事としても迫力があります。

●またも遠藤昭則氏による宇宙船の飛行原理を説明した科学記事が出ました。地球の科学者が思いつかなくなった画期的な理論を発見しているようです。アダムスキーが伝えた宇宙的な体験が科学的にも如何に深遠な内容であったかを示唆しています。

●ロシアの超能力者ダイナの驚異的なパワーほど超能力の存在をアピールするものはないでしょう。これだと思いついたのは、昔、フランスの聖女ベルナデットの謎の体験を徹底的に否定した地位のある男がガンになってマツサビエユの聖泉の手すりにも虚ろな目でつかまっていた古い映画の一場面です。

●本号には不思議な体験やUFO目撃報告類を掲載しましたが白眉は大天文学者トンクンポ博士の古いレポートと推理作家・高橋克彦氏の記事です。高橋氏はUFO肯定論者でもあり、UFO関係の著書も出しておられます。

●UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。ふるってご応募下さい。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 秋季号
UFO contactee 130号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒103東京都江戸川区本一色1-12-11-311
TEL 03-3665-1096/58
00140-2-35912 振替

一九九五年七月二十五日発行
定価七七円(本体九〇〇円)・送料240円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

1995年度

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※8月のみ第2日曜日の13日に変更。会場も第1研修室に変更。 ※9月は総会開催のため月例セミナー中止。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー 受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 テキスト=「超能力開発法」 3:10→5:00 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-422-0228	¥500	東京月例セミナーにおける久保田会長の講義ビデオまたは録音テープを公開。テキストは上記と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※9月は東京総会出席のため月例セミナーは中止。	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、セミナーは中止。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊橋経由動物公園方面バスで約7～10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	宜野湾市嘉数1-6-5早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※10月のみ第3日曜日から第4日曜日の22日に変更。	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場については小川宛事前に問い合わせること。1月より会場を右記へ変更。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR新宮駅下車、徒歩5分。新宮市役所隣。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出労働福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同 上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時は変更があるため事前に高梨宛電話。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同 上



オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーがカリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130



金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード<超能力開発用>

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのテューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥900 送料¥130 (2~5個)¥190



テレフォノカード

日本GAP特製テレフォノカードの第7弾。1951年3月15日、午前10時30分、アダムスキーがパロマー山で6インチ反射望遠鏡を使用して連続4枚撮影した金星の母船の4枚目です。母船から6機のスカウトシップ(円盤)が発射されているのが見えます。

¥1,500 送料10枚まで¥80



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表面の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール
シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集 訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・品番・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒113 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP 振替 00140-2-35912

☎03-3651-0958

申込先

日本GAP能力開発カセットテープ

★日本GAP東京本部月例セミナー

毎月開催される日本GAP東京本部月例セミナーから、久保田会長の「超能力開発法」解説講義と質疑応答その他を録音したテープ。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、あらゆる障害を超えて成功に到達できます。

- テープ① ¥1500
(内容) 久保田会長による新アダムスキー全集第2巻「超能力開発法」の講義。近況報告。
- テープ② ¥1200
(内容) 会員による講演、超能力開発練習、質疑応答。
- 1994年度日本GAP総会2巻セット ¥2700
(内容) 久保田会長講演「信念と希望と絶対に諦めない力を引き出す方法と成功の秘訣」質疑応答。本総会テープのバックナンバーあり。往復ハガキでお問い合わせください。送料テープ1本 ¥190、2~3本 ¥270、4~6本 ¥390

申込先 品名、〇年〇月分、個数、氏名、住所、電話番号をご明記の上、郵便振替でご注文下さい。(テープの代金後払い不可)
〒113 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 振替 00100-2-162644 ☎03-3653-9387

日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

- 東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000
(内容) 久保田会長の解説講義、他、約120分。
- 日本GAP総会 全2巻各¥3000
(内容) 毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分からは在庫あり)
- 日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000
(内容) 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分からは在庫あり)
- 1992年度デザートセンター調査行 全1巻 ¥3000
(内容) 1952年11月20日、アダムスキーが金星人とコンタクトした地点その他を調査した記録。送料はビデオ1本¥300、2本以上3本まで¥700、4本以上7本までは距離に応じて変わります。

申込先 ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払い不可)
〒113 東京都新宿区高久町36-18 高久マンション103
伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎03-3351-9526

希少限定 貴石・クリスタルパワー

テレビ・ラジオ・雑誌などで活躍中の秋山真人先生の本物の
パワーグッズ遂に完成！ 願望実現のスーパーサイエンス！

遂に秋山真人のサイ・テクノロジーを駆使したパワーアイテムが誕生しました。

今回は、ペンダントタイプとプレスレットサークルの二種類になります。

まず、ペンダントとプレスレットに共通するのは素材は総天然水晶、中心部は完全透明水晶を八角形六段カットのベースに、秋山先生の長年の研究から生まれた九つの特殊図形「潜在意識のアルファベット」と呼ばれる、世界中の古代図形群から、眺めるだけで潜在意識を活性する図形を収集し編集しました。特殊カット技術により刻みこまれており、身につけた人の意識を活性化し気を短時間で強化する視覚作用があります。また八角形六段カットは見た目にも美しく、古代中国では八方位の気を味方につけると言われた形で、ファッションアイテムとしても贅沢なデザイン。

さらにプレスレットでは、ローズクォーツ(紅水晶)とエンゼルヘア・クウォーツ(金毛状ルチル入り水晶)の天然希少鉱石二種類を使用しています。紅水晶は愛情運に恵まれる作用があると言われ、エンゼルヘア・クウォーツはインスピレーションに満たされ天使(宇宙の気)の守護を受けると言い伝えられています。

そして、このペンダント、プレスレット共に実際のエジプトのピラミットの気(真正ピラミットパワー)を封入。史上最強の気のパワーグッズが完成したのです。事前のモニター調査では使用した人の89.8%が気の強烈に効果を体験しています。

- 気は、あなたのあらゆる能力を自然に「底上げ」してくれます！
 - 気は、直観力、創造力、コミュニケーション能力を開発します！
 - 気は、あなたを健康に向かわせます！
 - 気は、人材活性、ビジネスに応用できます！
 - 気は、貴方の回りの人間関係を円滑にし、愛情獲得能力を飛躍的に高めます！
- 今回、手作り製作のため、本誌上限定500個とさせていただきますので、ご希望の方は早めにお申込み下さい。



秋山真人先生

頒布価格

○プレスレットサークル
(S18cm・M20cm共)
22,800円

○ペンダントタイプ
(チェーン60cm・18Kヘッド金具付)
26,800円

※共に美麗桐箱入り。
送料代金 各500円。税込価格。

数千年の時を経た縄文パワー(本物)を貴方の手にゆだねます！

秋山先生の研究所では、気の高まる希少なアンティーク(骨董品)や、鉱物の研究が盛んに行われています。そのなかでも、日本の縄文時代の人々が残した石器片コレクションは秋山先生おすすめの逸品。アメリカンインディアンも縄文人もなぜか同じ材質の石を使用しており、家中に飾ると幸運が訪れるという伝説はアメリカでも日本でも共通しています。不思議なのは、約1週間枕元に置いて寝ると夢の中に前世の記憶が蘇りやすくなること。前世覚醒効果はこのアンティークがNo.1だと言われています。本物の古代の神秘を貴方に！希少品のため、誌上220個の格安限定頒布です。品切れの際はご容赦ください。

秋山先生の鑑定証書(発掘地名明記)、携帯用本革袋付で9600円 送料400円 税込価格。



縄文石器グッズ



生涯学習プログラム

秋山先生の研究所では、人間の潜在能力を飛躍的に高める「気能法」生涯学習プログラムや、他では入手できない強力な運命改善波動をもつ極希少鉱物、アンティークなどがそろっています。特に鉱物、アンティークは格安で、入手困難なものも多く、興味のある方は気軽に問い合わせ下さい。現在、赤水晶(紅水晶ではない)や、国産水晶(入手困難)小神像やアンティークアクセサリー、古画などがあります。

お申し込み方法

代金は現金書留か郵便為替でお申し込み下さい。又、お申し込みの際に必ず希望商品名、個数と氏名、住所、電話番号、生年月日、年齢を忘れずに記入して下さい。

●商品代金とともに送料代金も必ず 同封して下さい。

お申し込み先 〒175 東京都板橋区成増1-4-1 成増ヒルズビル1F
国際気能法研究所 R係 FAX 03-3939-0688

お問い合わせ先 **TEL 03-3939-0382** (受付時間 平日10:00~18:00)